
遊戯王に転生？ そんな事より婚約者とイチャイチャしてたい。

無限の剣製作者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王に転生？そんな事より婚約者とイチヤイチヤしてたい。

【Nコード】

N9002W

【作者名】

無限の剣製作者

【あらすじ】

原作？決闘？そんな事よりこっちでできた婚約者とイチヤイチヤしてたい。な主人公の物語です。ご都合主義・チートドロが多分に含まれますが読んでいただけると嬉しいです。

チートドロー？ええ、事実ですが何か？（前書き）

何本連載抱える気なんだよ、俺は……

というわけで見切り発車で始まったこの駄文。どうなるのかわかりませんが楽しんでいって下さい！！

チートドロ―？ええ、事実ですが何か？

「フレイム・ウィングマンで攻撃！！スカイスクレイパー・シユート―！」

「ペーペロンチーノ―ッ！！」

お、やってるやってる。原作の名シーンを見逃したのは痛いけどな。はい、皆様の予想通り転生者の夜光鏡夜です。なんか気がついたらGXの世界に転生してました。

まあ、他の転生者とは違う所が一つだけある。それは――

「鏡夜……行かなくていいの……？」

可愛い婚約者がいるんだよ！！

しかも転生者。マジ俺得。

「おつ、悪いな、綾香」

「別に貴方の心配をしたわけじゃない……」

おうおう、ツンツンだな。

「でも……」

ん？

「負けたら……許さないんだから……！！」

そう言っつて顔を真っ赤にして別の方向へと逃げていく我が婚約者。あのツンデレが本当に可愛いんだから。

――さて。

「受験番号零番、夜光鏡夜だ。ヤコウ・キョウヤ受験しに来てやった。感謝しろ」とりあえず、まずは試験を受けるのが先かな？

「貴方の相手はこの私がすることになったノーネ」

「ああ、そうか。まあ、誰でもいいや。じゃあ、始めようぜ」

「生意気なドロップアウトボーイなノーネ……」

「デュエル決闘！！」

クロノス

LP4000

「私のターン、ドローによー！私は、トロイホースを召喚！ーさらに、魔法カード二重召喚を発動！ーこのカードは、通常に加えてもう一度だけ通常召喚を行う事が出来るノーネ。私は、トロイホースを生贄に捧ーげ、古代の機械巨人を召喚！ーカードを一枚伏せて、ターンエンドなノーネ」

クロノス

LP4000

場

古代の機械巨人（攻撃力3000）伏せカード一枚

うん。普通の光景だね。

にしても二重召喚って現環境では全く使われないカードなのに、良く使うなクロノス。

後ギャラリー。たかが攻撃力3000ごときで終わったとか言ってるんじゃないねえ。今から本当の『終わった』攻撃力を見せてやるよ！ー！

「俺のターン、ドロー。俺は強欲な壺を発動。デッキからカードを二枚ドローする」

来ました禁止カード。

たった一枚でハンドアドバンテージを一枚稼げるとかまじチート。そして手札は、

・未来融合―フューチャー・フュージョン―

・サイバネティク・フュージョン・サポート

・リミッター解除

・ハーフ・シャット

・サイバー・ジラフ

・大嵐

・パワーボンド

自重はしない！！とことんやってやる！！

「俺は魔法カード大嵐を発動！！フィールド上の全ての魔法・罫力カードを破壊する！！」

破壊されたのは聖バリ。予想通りすぎて困る。

「サイバージラフを召喚して効果発動！！このカードをリリースする事でこのターンの効果ダメージを零にする！！さらに、永続魔法、未来融合―フューチャー・フュージョン―を発動！！俺が選択するのは、キメラテック・オーバー・ドラゴン！！俺はデッキからサイバードラゴンを含む機械族モンスター29枚を墓地に送る！！」

プレイミスか？なんてばやいてる奴ら。これは悪夢の幕開け以外他

ならないぞ？

「さらに俺は、速攻魔法サイバネティック・フュージョン・サポーターを発動！！このカードは、ライフを半分払うことで墓地のモンスターを融合素材として扱う事が出来る！！俺は、魔法カードパワーボンドを発動！！このカードは機械族専用の融合カード。この効果で融合召喚されたモンスターは、元々の攻撃力が倍になる。リスクとしてターン終了時に元々の攻撃力分だけダメージを受けるが、それはサイバージラフの効果で無効になっている」

鏡夜

LP 4000 ↓ 2000

「さあ、表れる！！キメラテック・オーバー・ドラゴン！！」

鏡夜

場キメラテック・オーバー・ドラゴン（攻撃力48000）

「キメラテック・オーバー・ドラゴンの効果により、このカード以外のカードは全て墓地に送られるので、俺は未来融合「フューチャー・フュージョン」を墓地に送る。俺は、速攻魔法リミッター解除を発動！！このカードは、自分の場の機械族モンスター全ての攻撃力を二倍にする！！代償としてターン終了時に破壊されるがな」

鏡夜

キメラテック・オーバー・ドラゴン（攻撃力48000 ↓ 96000）

「攻撃力、96000だと……？」

「馬鹿な……」

先程まで啞然としてたお馬鹿さん達が驚いている。ま、当然か。こんな攻撃力見た事ないだろうし。

「速攻魔法、ハーフ・シャットを発動！！このカードは、受けたモンスターに戦闘耐性を与えるかわりに、攻撃力を半分にする！！対象は、古代の機械巨人！！」

「な、なんでスート！！」

クロノス

場

古代の機械巨人（攻撃力3000↓1500）

「キメラテック・オーバー・ドラゴンで攻撃！！エヴォリユーション・レザルト・バースト！！イチレエンダア！！」

「ペーペロンチーノーツ！！」

クロノス

LP4000↓-90500

「まだだ！！キメラテック・オーバー・ドラゴンの効果発動！！このモンスターは、融合素材にしたモンスターの数だけ相手モンスターに攻撃が可能！！その攻撃回数は——残り二十九回！！」

「ま、まさーカ、そのためーニ、ハーフ・シャットを！？」

「その通りだ。さあ、オマケだ！！エヴォリユーション・レザルト・バースト！！ニジュウキュウレエンダア！！」

「ペーペロンチーノーツ！！」

クロノス

LP-90500↓-2831000

うわ。なんてオーバーキル。七桁のダメージなんて久し振りに見た。自分がやったんだけど。

「す、すげえ……」

「あのクロノス先生に、なんてオーバーキルだ……」

「七桁なんて、俺、初めて見たよ……」

観客共が驚いてる。まあ、普通は驚くと思うけど。

今回使用したデッキは、みんな大好き未来オーバーだ。ただまあ、原作オリジナルカードをいくつか入れてある。その中の一つがサイバネティック・フュージョン・サポート。本当強かったです。

「終わった……？」

「ん？来てたのか？」

振り返ると、そこには我が愛しき婚約者——桜野綾香サクラノ・アヤカの姿があった。

「帰ろ……今日は疲れた……」

そう言つて、俺におぶさる綾香。もう、本当に可愛すぎる！！

「そうだな。そろそろ迎えも来てるだろうしな」

殆ど見れないオーバーキルに何も言えない観客を無視して、俺と綾香は試験会場を後にした。

チートドロー？ええ、事実ですが何か？（後書き）

今回主人公が使ったデッキは未来オーバーです。サイバー・ラーヴァ、ツヴァイ、エルタニンも当然のように入っています。今回は出て来ませんでした。

なんでサイバネティック・フュージョン・サポートがOCG化しないのかって？強すぎるからだよ！！

では、次回投稿いつになるかわかりませんが、応援していただけると嬉しいです。

主人公？はいはい、寒波寒波。（前書き）

寒波使いません（笑）

主人公？はいはい、寒波寒波。

「無事、合格したね……」
「そうだな」

あの後、普通に合格の知らせが届き、校長のともなく長い話を聞き終え、俺は今ライイエロー寮の前にいる。

はい、普通にライイエローでした。別に物語に介入する気もないし、ここでひたすら綾香と淫靡な生活を送れたら十分です。

「にしても、お前のデツキよく試験官に嫌われなかったな」

「嫌われたよ……でも勝ったから合格になった。負けてたら間違いなく不合格だったけどね……」

そう言って苦笑する綾香。本当に可愛い。

「それにしても……」
「そうね……」

「「暇だ（ね……）」」

あの試験での超絶オーバーキルが怖いのか、誰も俺に話しかけようとしてくれない。はあ……

「……暇ならオシリスレッドに行こ……？あそこなら、多分主人公がいるはずだから……」

「それはいい考えだ。さすが綾香！ー！」

「そ、そんなに誉められると……照れる……」

顔を真っ赤にしてそっぽを向く綾香。ああもう、本当に可愛すぎて生きてるのが辛い!!

「……鏡夜……?」

「ん?どうした綾香?」

「早く、行こ……」

「そうだな」

「お?お前はクロノス先生に超オーバーキルをした奴じゃないか!」
「?」

「ああ、そうだ。俺は夜光鏡夜。よろしくな、遊城十代」

「お?なんで俺の名前を知ってるんだ?」

「俺の前にクロノスを倒したのはお前だろ?その実力、見てみるか?HERO使い」

「ああ、そうだな!!よし、デュエルしようぜ!!」

やばい。狙い通り過ぎて何も言えない。

「「^{デュエル}決闘!!」」

「先行は貰うぜ!!俺のターン、ドロー!!俺は、魔法カード融合を発動!!手札のフェザーマンとバーストレディを融合し、表れる

！！マイフェイバリット、フレイム・ウィングマン！！」

いきなり融合ですか。流石はチートドロー。

「カードを一枚伏せて、ターンエンドだ」

十代

LP4000

場

E・HEROフレイム・ウィングマン（攻撃力2100）

伏せカード二枚

手札6枚↓2枚

「俺のターン、ドロー」

さて……手札だが、これは酷い。

まあ、そういうデッキだからしょうがないんだけど。

「俺は未来融合―フューチャー・フュージョン―を発動！！F・G・Dを選択し、デッキから五枚のドラゴン族を墓地に送る！！俺は、デッキからホルスの黒炎竜Lv4を二枚、Lv6、ミンゲイドラゴン二枚を墓地に送る！！」

この世界未来融合制限がかかってないから三積み出来るんだよ……なんてことはおいといて。

「魔法カード、死者蘇生を発動！！墓地からホルスの黒炎竜Lv6を特殊召喚！！」

鏡夜

場

ホルスの黒炎竜Lv6（攻撃力2300）

「手札から速攻魔法サイクロンを発動！！その伏せカードを破壊する！！」

「何！？」

破壊したのは攻撃の無力化。これでフレイム・ウィングマンを守る物は存在しない。

「バトルだ！！ホルスの黒炎竜Lv6でフレイム・ウィングマンに攻撃！！フォーサウザンド・ヒストリーLv6！！」

技名はとんでもなく適当。が、ホルスはしっかりとその責務を果たしてくれた。

「くっ……フレイム・ウィングマン！！」

十代

LP4000↓3800

「カードを二枚伏せて、ターンエンド！！そして、ターンエンド時にホルスの黒炎竜Lv6の効果発動！！このカードを墓地に送る事で、デッキからホルスの黒炎竜Lv8を特殊召喚する！！さあ、進化しろ黒炎竜！！」

鏡夜

LP4000

場

ホルスの黒炎竜Lv8（攻撃力3000）
伏せカード二枚

手札6枚↓1枚

「俺のターン、ドロー！！俺は、魔法カードミラクル・フュージョンを発動！！」

恐らくホルスの効果を知らないから発動したんだろう。だが、甘いぞ十代！！

「この瞬間、ホルスの黒炎竜Lv8の効果発動！！魔法カードの効果を無効にしそのカードを破壊する事が出来る！！ヒストリー・オブ・キャンセラー！！」

「何！？」

あえなく破壊されるミラクル・フュージョン。残念だったな、十代。

「そ、そんなカード卑怯っス！！」

外野が五月蠅いが、無視だ無視。

「くっ、俺はスパークマンを守備表示で召喚……ターンエンドだ」

十代

LP3800

場

スパークマン……まさかあの手札、融合……！？となるとあいつは、ミラクル・フュージョンでフレイム・ウィングマンを蘇生した後、融合でシャイニング・フレア・ウィングマンを出そうとしていたのか……？

チートドローもここまで来ると恐怖だな……

「俺のターン、ドロ―」

ふむ。いいカードが来たな。

「魔法カード、命削りの宝札を発動！！手札が五枚になるまでドロする！！」

引いたカードは……これは勝ったな。

「手札からおろかな埋葬を発動！！デッキから真紅眼の黒竜を墓地に送る！！さらに、仮面竜を召喚し、それをゲームから除外し、表れる！！レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン！！」

鏡夜

場

ホルスの黒炎竜Lv8（攻撃力3000）

レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン（攻撃力2800）

伏せカード二枚

出ました、原作とは似ても似つかずどこがメタルか全くわからない竜！！

だが、出しやすくてとんでもなく強いんだよな、こいつは。

「レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴンの効果発動！！―ターンに一度、手札が墓地からドラゴン族モンスター一体を特殊召喚出来る！！表れる、真紅眼の黒竜！！さらに、このカードを墓地に送り、手札から真紅眼の闇竜を特殊召喚する！！」

まだまだ！！まだ俺のメインフェイズは終了していない！！

「伏せておいた速攻魔法、飛龍天舞を発動！！デッキからドラゴン族モンスターカード四枚を墓地に送り、その数×300ポイント攻撃力を上昇させる！！さらに真紅眼の闇竜は、墓地のドラゴン族×300ポイント攻撃力を上昇させる！！」

鏡夜

場

ホルスの黒炎竜Lv8（攻撃力3000↓4200）

レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン（攻撃力2800↓4000）

真紅眼の闇竜（攻撃力2400↓3900↓6300）

ちなみに伏せておいたもう一枚のカードはお触れ、残り一枚の手札は寒波だったりする。

結局使わなかったけどね。さあ、派手に終わらそうか！！

「レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴンでスパークマンに攻撃！！ダークネスメタルフレア！！」

「くっ……スパークマン……」

守備力1400しかないスパークマンでは到底かなわず、一瞬で戦闘破壊される。

「さあ、派手に消し飛ばえ！！ホルスの黒炎竜Lv8、真紅眼の闇竜で攻撃！！フォーサウザンド・ヒストリーLv8！！ダークネス・ギガ・フレイム！！」

「う……うわああああつ！！」

十代

LP3800↓-400↓-6700

「くっそー、負けちゃったぜ！！でも、ガッチャ！！楽しいデュエ

ルだったぜ!!」

負けた十代が近づいて来る。まさか、オーバーキルされたのに、気にしていないとは。

でも、そのへこたれない打たれ強さがコイツの強さなんだろう。そこは、こいつを素直に尊敬すべき点だ。
それに比べて――

「なんなんスカあのデュエルは!! あんなリスペクトの欠片もないデュエル、認められないっス!!」

――こいつがカスすぎてうざい。

リスペクト? そんな物で勝てたら苦労しないよ。それにあの後攻サイドラ三枚パワボンはいいのか。あっちのほうがよくぼどリスペクトに反してるぞ?

「十代。付き合ってくれてありがとな。また後で俺の部屋に來い。HEROに関するカードをいくつかやろう。ああ、そしてその屑屑とはなんスカ!!」

「人のやっている事を批判しか出来ないのか? そんなだからお前は兄貴にパワーボンドを封印されるんだよ」

「う……」

図星すぎて何も言えない屑。ああ、本当にうざかった。

「鏡夜……そろそろ戻ろ……? 今日は歓迎会があると思うし」

「ああ……そうだな。じゃあな、十代に屑。十代はまた後でな」

十代達に背を向け、俺はイエローの自分の寮に向けて歩き出した。

綾香の要望で彼女をお姫様抱っこしながら。

主人公？はいはい、寒波寒波。（後書き）

今回のデッキはドラゴン軸のお触れホルスです。初期十代のデッキではこれは多分倒せないかと思い使用してみました。

ミンゲイドラゴンを墓地に送った理由は保険です。このデッキ自体かなり重いので生贄要員として入れてみました。

実はサイコショッカーも入ってます。結局使いませんでした。

飛龍天舞が何故OCG化されないかって？強すぎるからだよ！！

では次回。いつになるかわかりませんが。

あれ？万丈目って……双子……？（前）（前書き）

万丈目出番ありません（笑）

あれ？万丈目って……双子……？（前）

「……来たか」

「来たみたいね……」

歓迎会も終わり十代にいくつかカードを渡した後部屋で綾香と戯れていたら、その終わりを表すかのように俺のPDAが鳴り響いた。

「……よ、十代」

「お、鏡夜か！！さっきはありがとな！！」

「まあ、気にするな。俺の暇潰しに付き合ってくれた礼だ」

深夜。本当は綾香とイチヤイチャといやらしい行為を夜まで続けたかったのだが綾香の進めにより万丈目主催のアンティデュエルに巻き込まれる事になった。

ちなみに十代には幾つか便利なカードを渡してある。主に前の世界で使われていたHERO関連のカードを。

「万丈目さん、俺にあの生意気な新入生をやらせて下さい！！」

「万丈目さん、俺はあの女です！！」

ほう、俺の相手は取り巻きか。こりゃなんてテンプレな。
でもまあどうでもいいし――

「さつさと部屋に戻ろうぜ」

「……そうね……」

面倒くさいからあのデッキでいこう。ワンキルデッキで。

「さつさと終わらせてやるよ。来い!!」

「これは互いのベストカードを賭けたアンティデュエルだ。その所、わかっているんだろうな？」

「別にデッキごと賭けてもいいぜ？」

「ぬかせ!!」

「「^{デュエル}決闘!!」」

「先攻は俺が貰う!!ドロー!!俺は、ゴブリン突撃部隊を召喚!!さらに、装備魔法デーモンの斧を装備させる!!カードを一枚伏せてターンエンドだ!!」

取り巻き

LP4000

場

ゴブリン突撃部隊（攻撃力2300↓3300）
伏せカード一枚、デーモンの斧手札6枚↓3枚

……いや、マジでテンプレ。どうせあの伏せカード最終突撃命令だろ？

ま、今回の俺のデッキには何も関係ないけど。

「俺のターン、ドロ。魔法カード、苦渋の選択を発動！！デッキから五枚のカードを指定し、相手にそのうち一枚を選ばせ、その一枚を手札に加え、それ以外を墓地に送る。俺が選択するのは、封印されしエクゾディア、封印されし者の右足、封印されし者の左足、封印されし者の右腕、封印されし者の左腕だ」

「エクゾディアパーツを墓地に送るだ……？」

もうこの時点で俺のデッキ、そして手札がわかってしまった方も多いだろう。それにしても、苦渋の選択って本当にチートだな。

「なら封印されし者の右腕を手札に加える……！」

「わかった。俺は魔法カード死者転生を発動！！手札を一枚捨て、墓地のモンスターカード一枚を手札に加える！！俺は封印されしエクゾディアを手札に加える……！」

「だがまだ三枚のパーツカードが墓地に送られている。どうするつもりだ？」「さあ、どうだろうな？俺は天使の施しを発動。カードを三枚引いて二枚捨てる。そしてカードを二枚伏せ、ターンエンドだ」

鏡夜

LP4000

場

伏せカード二枚

手札6枚↓3枚

この時点で俺の勝ちほぼ確定したな。

「俺のターン！！ドローフェイズ時にリバース罠、補充要員を発動！！墓地にある封印されし者の左腕、封印されし者の左足、封印されし者の右足を手札に加える！！」……へ……？」

はい、エクゾディア完成。

ちなみにもう一枚の伏せカードは神の宣告。どう転んでも勝利は確定していた。

「お前はもう、死んでいる」

「うわあああああっ！！」

鏡夜

封印されしエクゾディアのカード効果で勝利

さて、あつちは……っと、もう終わってたか。

side 綾香

……はあ……早くこんな終わらせて鏡夜とエツチな行為をしたい……

せっかく私と鏡夜が（検閲されました）な行為に勤しんでいたって
いうのに……

さっさと倒して鏡夜と部屋に戻る……

「で、私の相手は……?」

「俺だ。このデュエルは」

「アンティデュエル、でしょ……?早く終わらせよ……」

「随分と大口叩くじゃねえか!!吠え面かくなよ!!」

「こっちの台詞……」

「^{デュエル}決闘!!!(……)」

「先攻は貰う……私のターン、ドロ……魔法カード、強欲な壺を二枚発動……デッキからカードを二枚ドロ……カードを二枚伏せてから魔法カード天使の施し……カードを三枚引いて二枚捨てる……」

……

「おいおい、手札事故か?」

「……うるさい……魔法カード、昼夜の大火事を二枚発動……1600ダメージを受けてもらう……さらに、魔法カード御隠居の猛毒薬を二枚発動……800ダメージを二回受けて貰う……」

「な、なんだと!?ぐわっ!!」

取り巻き

LP4000↓800

「……ターンエンド……」

「よし、俺のターン、ドロ「リバースカードオープン、仕込みマシガン……相手の手札、場のカード×200ダメージ、合計1200のダメージを受けて貰う……」……な、なんだと!!?」

「絶望が、貴方のゴールよ……」

「うわああああっ!!」

取り巻き

L
P
8
0
0
↓
-
4
0
0

あれ？万丈目って……双子……？（前）（後書き）

主人公の使用したデッキは、苦渋エクゾです。いや、初手でこんな
んされてどう勝てという。

ヒロインは……原作オリジナルのドローカードを大量に入れたバー
ンデッキです。いや、こんなにどう（略）

ついでに主人公とヒロインの決め台詞募集中です！！感想欄に書い
て頂けると作者はとても喜びます！！

では次回。いつになるかわかりませんがまたお会いしましょう。

あれ？万丈目って……双子……？（後）（前書き）

なんかワンキル（笑）

あれ？万丈目って……双子……？（後）

俺達のワンキルの後、ようやく十代と万丈目が舞台に上がった。
というより、俺達の近くで見ているあの万丈目に似ている奴は誰なんだ……？一応ブルーらしいけど、なんか溜め息をついてるし。

「さあ、始めようぜ、万丈目！！」

「ふん、いいだろう。ブルーの力を見るがいい！！」

「「決闘（デュエル！！）」」

あ、また溜め息ついた。さっきのかっこつけた台詞のせいかな？

「先攻は俺が貰う！！ドロー！！俺は地獄戦士を攻撃表示で召喚！！カードを二枚伏せてターンエンド！！」

万丈目

LP4000

場

地獄戦士（攻撃力1200）

伏せカード二枚

はい、出ました中二（笑）

というより明らかにアマゾネスの剣士の下位互換という。
使うんならそっち使おうぜと言いたい。

「俺のターン、ドロー！！」

お、俺が渡したカードの幾つかを使うな？

「俺は、魔法カード強欲な壺を発動！！デッキからカードを二枚ドロ―する！！さらに、E・HEROエアーマンを召喚！！さらに、効果を発動！！デッキから、HEROと名のつくモンスター―体を手札に加える！！俺は、フェザーマンを選択する！！」

出ました、明らかに空気を読まない男エアーマン。

入れないHEROデッキは無いと言っていいほどの使用率が高く、その使い勝手の良い二つの効果のおかげでHERO唯一の制限カード！！

ちなみに属性HEROの融合体は渡してません。あんなの渡したらアニメHEROの出番無くなるじゃん。

「さらに、魔法カード大嵐を発動！！フィールド場の全ての魔法、罠を破壊する！！」

「なんだと！？」

破壊されたのは、やはりと言っていいと思えるカード、ヘル・ポリマーと攻撃の無力化。

これで十代の融合を阻止する物は何も無い。

「魔法カード、融合を発動！！手札のフェザーマンとバーストレディを融合！！表れる、マイ・フェイバリット、E・HEROフレイム・ウィングマン！！」

あ、詰んだかな？これは。

「魔法カード、HERO・Sボンドを発動！！手札から、E・HEROザ・ヒートとE・HEROフォレストマンを特殊召喚！！」

十代

LP4000

場

E・HEROエアーマン（攻撃力1800）

E・HEROフレイム・ウィングマン（攻撃力2100）

E・HEROザ・ヒート（攻撃力1600↓2400）

E・HEROフォレストマン（攻撃力1000）

……終わつたな。

にしても流石チートドロ！。初手でこの手札を揃えるとは、夢にも思つてなかった。

と言うよりも、ワンキルとか。流石に酷くないか？

「バトルだ！！行け、フレイム・ウィングマン！！フレイム・シューター！！」「くっ……だが、地獄戦士の効果発動！！戦闘ダメージを貴様も受ける！！」

「うっ……」

万丈目

LP4000↓3100

十代

LP4000↓3100

「だが、フレイム・ウィングマンの効果発動！！このモンスターが戦闘でモンスターを破壊した時、相手はそのモンスターの攻撃力分のダメージを受ける！！」

「な、なんだと！？うわああああっ！！」

万丈目

LP 3100 ↓ 1900

「エアーマン、ザ・ヒート、フォレストマンでダイレクトアタック
! !」

「ば、馬鹿な!!この俺様が、オシリスレッドごときにいいいい!
!」

万丈目

LP 1900 ↓ 100 ↓ - 2100 ↓ - 3100

「さあ、俺の勝ちだぜ!!アンティカードを渡して貰おうか!!」
「くっ……わかつ「ガードマンが来るわ!!もし校則で禁止されて
いるアンティデュエルがやっていたということがバレたら、退学に
なるかもしれないわよ!!」チイツ、今日の所はこれでお預けにし
とつやる!!次こそは必ず、お前を倒してやるからな!!」

あ、逃げた。

「とりあえず、俺達もここから逃げようぜ」

「うん……それがいいね……」

「ああ、そうだな!!」

「……ふう……」

外に出て、一息つく。結構走ったので、疲れてしまったから。

「……先程は、我が愚弟が迷惑をかけたな。もし良ければアンティの代わりにはならないかもしれないが、貰って欲しくないだろうか」

そう言つて、カードを渡して来る万丈目似の男。個人的には結構気に入った。

しかし……我が愚弟？となると、この男は――

「万丈目の、兄なのか？」

「ああ。俺は、万丈目順。不本意だが、あの愚弟の兄と言う事になっている」

会話を交わしてわかった。こいつは、漫画版の万丈目だ（……………）。

なんでかは知らないが、おそらくこの世界はアニメと漫画が少しだけ融合した世界らしい。この明らかに凛々しい万丈目がその証拠だ。

「いや、アンティは要らない。それよりも一つ教えてくれ。お前は、自らに枷をしいて戦っているか？」

「……ッ！！何故その事を！！」

ビンゴ。やはりこいつは、光と闇の竜を封印している時の万丈目だ。となると、こいつは強くなるな。下手をすると、原作のカイザーなんか相手にならないくらい強くなるぞ？なんてつたって、主人公を下しているんだから。

まあ、いいか。今はとりあえずさっさと帰って綾香と戯れよ。

「じゃあ、帰りに一つ忠告だ。さっさとそのくだらない枷を解け。お前の相棒はお前と共に戦いたがつてるし――それに、今のお前では俺達どころか十代にすら勝てないだろうしな」

「――どこまで知っているかは知らんが、俺は自分の力だけでこの学校のトップをとると決めた。だから、俺はアイツを封印したまま、

十代も貴様も倒す！！」

「そうか。なら、楽しみに待ってるぜ、万丈目順」

俺のこの言葉を最後に、万丈目は静かに手を振って離れていった。にしても、いい奴だ。嫌々ながらもあの馬鹿のやらかした事を拭ったり、その心意気もあるが、何よりも気に入った。

今度あいつと決闘する時は、光と闇の竜を使おうと心に決め、俺は綾香といやらしい事をするために部屋に戻る事にした。

あれ？万丈目って……双子……？（後）（後書き）

部屋に戻った後（R15）

「ふっふあ、も、もう限界……お願い、指だけじゃ我慢できない……」

「で、どうして欲しい？しっかりと口で言わなきゃ伝わらないぜ？」

―以下検閲済み―

呼び出し？無視して綾香と戯れたいな。（前書き）

明日香涙目（笑）

呼び出し？無視して綾香と戯れたいな。

「……今日は翔のラブレター事件の日だけど……」
「無視する」

「……私の裸が、見られるかもしれないのに……？」

「よし、あの屑を退学させに行くか」

「……計算通り……」

あれ？何かがおかしい。

というわけで、俺達は今明日香達と対峙しています。

場所は原作で十代と明日香が戦った孤島。こんな無駄な時間があったら、少しでも綾香と戯れてたいのにな……

どうも綾香は原作キャラが俺に負けるのが見たいらしい。困ったもんだ。

「翔君を助けたかったら、私と貴方達のどちらかが戦って勝つことね」

「いや、待ってくれ。俺はあの屑を助ける為に来たんじゃない。むしろ退学させる為に来たんだ」

「……どういうこと？」

「何、話は簡単だ。綾香はお前達と一緒に風呂に入ってたんだよね？」

「え、ええ」

「なら、俺の綾香の裸を見た可能性もあるんだよね？」

綾香の裸を見た可能性が少しでもある奴は殺す。主に社会的に。

「誤解ッス！！そんなことはしていないッス！！」

「黙れ。現在お前のせいで俺達はこんな所にいるんだ。その事を謝ろうともしない奴を助ける義理なんてない———と言いたい所だがどうも綾香は俺がお前を倒す所が見たいようだな。来い。闘つてやるよ」

「明日香様！！そんな大口叩く奴、ボツコボコにしてやって下さい！！」

何やら取り巻きが五月蠅いが無視だ。今回のデッキの前では明日香は何も出来ずに終わる。

「……いいわ。やってあげる。いくわよ！！」

「「^{デュエル}決闘！！」」

「先攻は譲ろう。レディファーストだ」

「そう？じゃ遠慮無く、ドロー！！私は、エトワール・サイバーを攻撃表示で召喚！！カードを一枚伏せ、ターンエンド！」

明日香

LP4000

場

エトワール・サイバー（攻撃力1200）

伏せカード二枚

手札6枚↓3枚

やべえ、テンプレ乙。

「俺のターン、ドロー！！俺は、ガガガマジシャンを守備表示で召喚！！さらに、このモンスターの効果でこのモンスターのレベルを

2とする！！魔法カード、孵化を発動！！フィールド場のモンスター一体をリリースし、デッキから、そのモンスターのレベルより1大きい昆虫族モンスター一体をフィールドに出す事が出来る！！現れる、アルティメットインセクトLv3！！さらに、速攻魔法地獄の暴走召喚を発動！！相手フィールド上に表側表示でモンスターが存在し、自分フィールド上に攻撃力1500以下のモンスター1体が特殊召喚に成功した時に発動する事ができる。その特殊召喚したモンスターと同名モンスターを自分の手札・デッキ・墓地から全て攻撃表示で特殊召喚する。俺はアルティメットインセクトLv3を二体攻撃表示で特殊召喚する！！」

鏡夜

LP4000

場

アルティメットインセクトLv3×3（攻撃力1400×3）

「だが、相手は相手自身のフィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択し、そのモンスターと同名モンスターを相手自身の手札・デッキ・墓地から全て特殊召喚する。さあ、エトワール・サイバーを限界まで出せ」
「……わかったわ」

明日香

LP4000

場

エトワール・サイバー×3（攻撃力1200×3）

「カードを二枚伏せてターンエンド」

鏡夜

LP4000

場

アルティメットインセクトLv3（攻撃力1400）

伏せカード二枚

手札6枚↓1枚

「私のターン、ドロー！！（くっ、融合が来ないわね）私は、ブレード・スケーターを攻撃表示で召喚！！このまま攻撃しても相打ちになるだけね……カードを一枚伏せてターンエンドよ」

明日香

場

エトワール・サイバー×3（攻撃力1200×3）

ブレード・スケーター（攻撃力1400）

伏せカード一枚

手札4枚↓2枚

「俺のターン、ドロー、スタンバイフェイズ時にアルティメットインセクトLv3の効果を発動。このカードを墓地へ送り、アルティメットインセクトLv5を特殊召喚する。進化しろ！！アルティメットインセクトLv3！！」

鏡夜

場

アルティメットインセクトLv5×3（攻撃力2300×3）

「さらに、魔法カード強欲な壺を発動。デッキからカードを二枚ドロー！！王虎ワンフーを攻撃表示で召喚！！永続魔法、強者の苦痛を発動！！相手モンスターは攻撃力がLvの数×100ポイントダウンする！！」

鏡夜

場

アルティメットインセクトLv5×3（攻撃力2300×3）

王虎ワンフー（攻撃力1700）

永続魔法強者の苦痛

「バトルだ！！アルティメットインセクトLv5でブレード・スクーターとエトワール・サイバー三体に攻撃！！」

「リバースカードオープン、カウンター罠、攻撃の無力化！！相手の攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了させる！！」

「ほう、防いだか。カードを一枚伏せ、ターンエンド」

鏡夜

LP4000

場

アルティメットインセクトLv5×3（攻撃力2300×3）

王虎ワンフー（攻撃力1700）

永続魔法強者の苦痛

伏せカード3枚

手札2枚↓0枚

「私のターン、ドロー！！（くっ、はやくあの虫かワンフーをなんとかしないと……！！）私は、魔法カード融合を発動！！場のエトワール・サイバーと場のブレード・スクーターを融合！！現れる、サイバー・ブリーダー！！」

「この瞬間、王虎ワンフーの効果発動！！攻撃力1400以下のモンスターが召喚された時、そのモンスターを破壊する！！」

「でも、サイバー・ブリーダーの攻撃力は——まさか！？」

「アルティメットインセクトLv5の効果だ。アルティメット・インセクトLv3の効果で特殊召喚した場合、このカードがフィールド上に存在する限り、全ての相手モンスターの攻撃力は500ポイ

ントダウンする。俺の場には三体存在するから合計1500ポイントダウンする。さらに、強者の苦痛により、攻撃力はレベル×10ポイントダウンする。よって、サイバー・ブレーダーの攻撃力は「0……」

「そういうことだ。さらばだ、サイバー・ブレーダー」

無惨にも破壊されていくサイバー・ブレーダー。エースモンスターがこんな方法で破壊され、明日香の精神もかなりやられたみたいだ。

「……クッ！！私は、モンスターをセット！！エトワール・サイバーを守備表示に変更し、カードを二枚伏せて、ターンエンドよ！！」

明日香

LP4000

場

エトワール・サイバー×2（守備力1500）×2

セットモンスター×1

伏せカード二枚

手札3枚↓1枚

それでも、まだその目は希望の光を宿している。まだ勝機があるのか、伏せた二枚のカードに希望を託したのか。

「俺のターン、ドロー」

だが、それもここまで。このターンで全て終わる。

「スタンバイフェイズ時にアルティメットインセクトLv5の効果発動。このカードを墓地に送り、アルティメットインセクトLv7を特殊召喚する。進化しろ、アルティメットインセクト達よ！！」

鏡夜

LP4000

場

アルティメットインセクトLv7×3（攻撃力2600×3）

王虎ワンフー（攻撃力1700）

永続魔法強者の苦痛

伏せカード三枚

さらに凶悪になった虫達が姿を表す。こいつらの効果は進化前の効果を遥かに凌ぐ。

「進化したアルティメットインセクトの効果は、相手モンスター全ての攻撃力と守備力を700ポイントダウンさせる。俺の場には三体いるから2100ポイントダウンだ」

明日香

LP4000

場

ブレード・スケーター（守備力1500↓0）

セットモンスター×1

伏せカード二枚

「魔法カード、天よりの宝札を発動。互いのプレイヤーは、デッキから手札が6枚になるようにカードをドローする」

お互いに手札を補充する。何かいいカードを引いたのか、明日香に顔に笑みが浮かぶ。

が。

「手札から、ハリケーンを発動。互いの魔法・罠ゾーンにあるカードを全て手札に戻す」

「そんな!？」

生憎だが、わざわざ次のターンにもっていく気はない。ここですとと終わらせる。

「それにチェインして罠カード、メテオ・レイン。このターン、俺のモンスターは貫通能力を持つ」

「……私の負け、ね……」

「ああ。だが、まだ終わらん。魔法カード、抹殺の使徒。その伏せモンスターをゲームから除外しろ」

「……………」

無言のまま、明日香はセットモンスターをポケットに入れた。そのモンスターはマシユマロン。もし俺がメテオ・レインを使っていなかったら次のターンにもっていかれたらう。

「全モンスターでダイレクトアタック!!」

「キャアアアアアッ!!」

明日香

LP 4000 ↓ 1400 ↓ - 1200 ↓ - 3800 ↓ - 5500

だが、これが現実だ。

「鏡夜……」

「綾香。どうだった、俺の決闘は?」

「今回も、凄く格好良かった……でででも、勘違いしないで……私が毎回、鏡夜の闘ってる姿を注視してるとか、そんなわけじゃ、

ないんだから……」

聞いてもないことを暴露してくれる我が婚約者。いつも思うが可愛すぎる。

「……ありがとな、お姫様」

「……馬鹿……」

でも、今は人が見ているので過ぎた事は出来ないから、欲望を無理やり抑えつけて頭を撫でるに留めておいた。

「ちよつと……この決闘は無効よ……」

だが、どんな世界にもいちゃもんをつけて来る奴はいるものだ。

「無効つて、どういう意味だ？俺はルールに違反した記憶は無いが」「あんな卑怯なカード使ってるんだから、無効に決まってるじゃない……」

駄目だ。俺の話を聞く気はないようだ。

無視して綾香と帰ろうとした俺であったが、綾香の怒りのオーラを感じて止めた。

「……ふざけないで……。ルールを守ってるのに、反則呼ばわりされる覚えは鏡夜には……ない……」

「はあ？アンタ、そいつの肩を持つわけ？」

「私の婚約者だし……それに、枕田、アンタの言動にイラついた……」

……ボコボコにしてあげる……」

「いいわ。私も、ちょうどイラついてたのよ。相手になってあげるわ……」

「「^{デュエル}決闘！！（…………）」

……いつの間にか、当事者を無視して話が進んでる……
まあいつか。怒ってる綾香も可いし。

呼び出し？無視して綾香と戯れたいな。（後書き）

今回使用したデッキはアルティメットワンフーです。いや、本当に鬼畜デッキですね（笑）

アルティメットインセクト達わ強者の苦痛で相手の攻撃力を奪い、ワンフー先生による殲滅……いや、原作キャラでこのデッキに勝てる人いるんだろうか。

カイザー（笑）を除いて。

では次回、綾香の二つ目のデッキを披露したいと思うので、もし良ければお読み下さい。

大人しい女の子は怒らせると怖い。でも怒っている綾香は可愛い。（前書き）

……当然のようにワンキル（笑）

大人しい女の子は怒らせると怖い。でも怒っている綾香は可愛い。

「私のターン、ドロー……！私は、バードフェイスを攻撃表示で召喚……！！カードを二枚伏せて、ターンエンドよ……！」

枕田ジュンコ

LP4000

場

バードフェイス（攻撃力1600）

伏せカード二枚

手札6枚↓3枚

あの伏せカード、恐らく攻撃反応型罠だろうな。なんか笑ってるし。でもな、綾香のデッキは、基本的に罠が関係ないぞ？

「私のターン、ドロー……魔法カード、強欲な壺を発動……デッキから、カードを二枚ドロー……魔法カード、天使の施し……三枚ドローして二枚捨てる……」

「ちよつと……！大口叩いていたわりに手札交換ばかりなわけ？」

駄目だ、あの女墓地肥やしという物をわかってない。

それに引き換え綾香は薄く、俺以外の人間にはわからないくらい、しかし確実に笑っている。

「私は、マンジュ・ゴッドを召喚……効果で、儀式魔法高等儀式術を手札に加える……」

あ、詰んだなこれは。

「儀式魔法、高等儀式術を発動……手札の儀式モンスター1体を選択し、そのカードとレベルの合計が同じになるように自分のデッキから通常モンスターを墓地へ送る……私は、終焉の王デミスを選択し、デッキから甲虫装甲騎士とネオバグを墓地に送り、デミスを儀式召喚する……表れて、終焉の王よ……」

綾香

LP4000

場

終焉の王デミス（攻撃力2400）

「デミスの効果発動……ライフを2000払う事により、このカード以外のフィールド場全てのカードを破壊する……終焉の嘆き……」
「ちよ、そんなカードあり!？」

枕田ジュンコ

LP4000

場

なし

綾香

LP4000↓2000

場

終焉の王デミス（攻撃力2400）

破壊された罫は聖バリと攻撃の無力化か。全くもって無駄な事を。それにしても完全に詰んだな。あのデッキじゃ、ゴーズやバトルフエーダー、速攻のかかしが入っている様子もないし。
おまけに昆虫族が墓地に二体以上送られているからな。

「墓地の二体の昆虫族を除外して、デビルドージャーを特殊召喚……さらに、装備魔法巨大化をデビルドージャーに装備……元々の攻撃力を倍にする……」

こうなるわけだよ。

俺のアルティメットワンフーも酷いが、このデミスドーザーもえげつない。まあ、高等儀式術やデミスに制限かけてないこの世界が悪いんだけど。

「デミス、デビルドーザーでダイレクトアタック……」
「キャアアアアアッ!!」

枕田ジュンコ

LP4000 ↓ 1600 ↓ -4000

めでたくワンキル達成、って言った所か。

「そ、そんな……」
「カードが卑怯な訳じゃない……全てはそれを扱うプレイヤーの腕次第……それがわからないのなら、貴方は一生私や鏡夜に勝てない……」

そう吐き捨て、綾香は俺の方に駆け寄ってくる。その姿があまりに愛しくて、俺は抱き締めてしまった。

「ちょ……ここ、外……」
「見せつけてやればいいだろ？俺達がどれだけ愛しあっているかを。それに、俺の為に怒ってくれて、嬉しかった」
「……馬鹿……」

お馴染みの言葉と共に、綾香も俺の腰に手を回してくる。
その間、隣で

「サンダー・ジャイアントでダイレクトアタック！！ボルテック・サンダー！！」

「きゃあああああっ！！」

十代と明日香の戦いが行われていた。

大人しい女の子は怒らせると怖い。でも怒っている綾香は可愛い。（後書き）

もはや説明不要なデミスドーザー。ワンキルデッキの代表格ですね（笑）

感想や案の方を送って頂けると作者の更新スピードが上がります（笑）

なので送って頂けると嬉しいです。

では次回。『月一試験』の舞台でお会いしましょう。

いつになるかわかりませんが。

こんな駄作者で大丈夫か？

やはり漫画版万丈目は強い。(前書き)

今回は決め台詞は無しです(笑)

やはり漫画版万丈目は強い。

月一試験。BWDばかりの試験をとつと終わらせ、空き時間に今日の夜はどんなプレイで綾香と戯れようかと考えながらすごし、当然のように新パックなど買うわけもなく、綾香とダラダラ過ごし、実技試験。

十代の相手は原作通り万丈目。そして、俺の相手は――

「漸くだな、順」

「ああ。だが、遠慮はしない」

万丈目『兄』、つまりは漫画版万丈目であつた。

「俺を徹底的に叩き潰す気で来い。じゃないと――気がついたら負けていることになる」

「それくらいわかつている。俺は、今持てる全力で貴様を倒す！！行くぞ――！！」

「「決闘（デュエル――！！）」

「先行は貰う。俺のターン、ドロ――！永続魔法、未来融合――フューチャー・フュージョン――を発動！！F・G・Dを選択し、デッキからダークエンド・ドラゴン、ライトエンド・ドラゴン、真紅眼の飛竜、真紅眼の黒竜、ミンゲイドラゴンを墓地に送る――！！」

この世界だとダークエンドとライトエンドは通常モンスターなんだよな。本当になんでシンクロモンスターになつたんだろ。

「永続魔法、一族の結束を発動――！墓地の種族が一種類である時、

俺のモンスターの攻撃力は800ポイントアップする!!」

「だが、お前の場にモンスターは……なるほど、いいコンボだ」

ほう。俺の戦術を理解したか。別に構わないけど、コイツあの万丈目とは格が違う。

まあ、負けるなんて思っていないけど。

「カードを二枚伏せ、ターンエンド。この時、墓地の真紅眼の飛竜の効果発動。通常召喚を行っていない時、墓地のこのカードを除外する事でデッキからレッドアイズと名のつくモンスター一体を特殊召喚出来る。現れる、真紅眼の黒竜!!」

鏡夜

LP4000

場

真紅眼の黒竜（攻撃力2400↓3100）

伏せカード二枚

手札6枚↓2枚

「俺のターン、ドロー!!」

さあ、この布陣をどうやって崩す? 万丈目順!!

「俺は魔法カードクロス・ソウルを発動。相手モンスター一体を自らの生贄にすることが出来る。——が、そのターンバトルフェイズは行えない。俺は、お前の真紅眼の黒竜を生贄に捧げ、現れる!! タイガードラゴン!!」

なる程。考えたな。万丈目。

「タイガードラゴンの効果発動！！ドラゴン族モンスターをリリースしてこのカードのアドバンス召喚に成功した時、相手の魔法＆罠カードゾーンにセットされたカードを2枚まで破壊する事ができる！！俺は、お前の未来融合と一族の結束を破壊する！！」

「だが甘い！！カウンター罠、天罰！！手札を一枚コストにし、相手モンスターの効果を無効にして破壊する！！」

天から落ちてきた雷が、効果を発動しようとしていたタイガードラゴンを容赦なく打った。

「くっ、俺は魔法カード早すぎた埋葬を発動！！ライフを800ポイント支払い、墓地のモンスター一体を特殊召喚する！！現れる、タイガードラゴン！！」

万丈目

LP 4000 ↓ 3200

場

タイガードラゴン（攻撃力2400）

「カードを二枚伏せ、ターンエンド！！」

万丈目

LP 4000 ↓ 3200

場

タイガードラゴン（攻撃力2400）

伏せカード二枚

手札6枚 ↓ 1枚

「俺のターン、ドロー……ほっ」

手札がいい。しかけてみるか。

「スタンバイフェイズ時に墓地のミンゲイドラゴンの効果発動！！自分の場にモンスターがおらず、相手の場にモンスターがいる時、墓地から特殊召喚出来る！！現れる、ミンゲイドラゴン！！」

表れる生贄。手札もいいし、仕掛けるには持つて来いだ。

「俺はミンゲイドラゴンを除外し、レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴンを特殊召喚！！さらに、効果で墓地の真紅眼の黒竜を特殊召喚する！！魔法カード、天よりの宝札を発動！！互いのプレイヤーは、手札が6枚になるようにカードをドローする！！」

原作最強のドローカード。使い勝手が良すぎて困る。

「真紅眼の黒竜をリリースし、真紅眼の闇竜を特殊召喚！！さらに、魔法カード手札抹殺を発動！！互いのプレイヤーは、手札を全て捨て、その数だけドローする！！」

これでまた墓地にカードがたまる。そして、手札には……ようやく来たか。

「魔法カード、コストダウンを発動！！手札を一枚捨て、手札のモンスターカードのレベルを2下げる！！さらに、魔法カードクロス・ソウル！！効果は説明不要だな。俺は、万丈目のタイガードラゴンをリリースし、我が場に姿を表せ！！光と闇の竜！！」

鏡夜

LP4000

場

レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン（攻撃力2800）

真紅眼の闇竜（攻撃力2400↓4800）

光と闇の竜（攻撃力2800）
手札4枚↓2枚

「ら、光と闇……」

呆然としているな。これだけでも召喚したかいがある。

「カードを二枚伏せ、ターンエンド」
「俺のターン、ドロー！！」

この状況。逆転は難しいにも関わらず、まだ順は諦めていない。
さあ、手札は七枚。どうするんだ？万丈目！！

「俺は、魔法カード、強欲な壺を発動する！！」

「光と闇の効果、このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、効果モンスターの効果・魔法・罫カードの発動を無効にしてこのモンスターの攻撃力と守備力は500ポイント下がる。無効だ」

「それにチェインして速攻魔法、収縮を発動！！光と闇の元々の攻撃力を半分にする！！」

なる程。そう来たか。流石は相棒、対処の仕方もわかっているというわけか。

「魔法カード、大嵐を発動！！」
「無効だ」

「魔法カード、聖水の弊害を発動！！」
「無効だ」

わざわざ強欲な壺を捨ててまで攻撃力を下げに来たか。これは少々拙いか？

「俺は、魔法カード二重召喚を発動！！」

「無効だ」

これで四回目の発動。守備力が500ポイントを切った為、無効効果が無くなった。

「手札から、天よりの宝札を発動！！」

「何いっ！！？」

このタイミングでそれを使うか！？なんてチートドローだよ！！

「俺はミンゲイドラゴンを召喚！！さらに、ミンゲイドラゴンを生け贄に捧げ、ダークエンド・ドラゴンを召喚！！」

ダークエンドって……不味い、不味すぎる！！

「リバーカードオープン！！神の宣告！！ライフを半分払い、モンスターの召喚、特殊召喚を無効にして破壊する！！」

「なんだと！？」

鏡夜

LP 4000 ↓ 2000

場

レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン（攻撃力3600）

真紅眼の闇竜（攻撃力5600）

光と闇の竜（攻撃力2000 ↓ 1200）

あ、危なかった……光と闇の竜のデメリット効果で負ける所だった

……

「……くっ、カードを一枚伏せ、ターンエンドだ……」

万丈目

LP 3200

場

伏せカード一枚

手札7枚↓3枚

「俺のターン、ドロー」

さて。ダークエンドの登場には少し驚いたが、このターンで終わらせるか。

「スタンバイフェイズ時に未来融合の効果で、F・G・Dが融合召喚される。表れる、F・G・D」

降臨する攻撃力5000の怪物。あの伏せカードが激流葬じゃなくて良かったよ、本当に。

「メインフェイズにリバース罠、あまのじゃくの呪いを発動。このターン、攻撃力、守備力を下げる効果は上げる効果へと変わる」

鏡夜

LP 2000

場

光と闇の竜（攻撃力4800↓4000）

真紅眼の闇竜（攻撃力5600↓0）

F・G・D（攻撃力5000↓4200）

レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン（攻撃力2800↓200）

00)

「なんだと！？（俺のミラーフォースが！！）」

あの様子だとあの伏せカードは聖バリか。最後まで油断ならない奴だ。

だが、これで終わりだ。

「バトルフェイズ、光と闇の竜で攻撃。ダーク・ハプティズム！！」
「く……そおおお！！」

万丈目

LP3200 ↓ 1600

デュエルが終わった瞬間、観客達から歓声が沸き上がる。俺自身、かなり危ない戦いだった。天罰、神の宣告。どちらか一つでも抜けていたら負けていただろう。特に神の宣告。

「……クツ！！夜光鏡夜、今回の敗北は俺の慢心による物だ。だが、次は必ず勝つ！！俺の光と闇と共に！！」

「ああ、その時を楽しみに待ってるよ、順」

俺の言葉には何も返さず、ただ無言のまま帰って行く順。次は、さらに強くなるんだろう。

まあ、今はそんな未来の事はどうでもいい。

「鏡夜、危なかったね……」「ああ。凄く危なかった。心配してくれてたのか？」

「そんな事、するわけない……だって、私は鏡夜が必ず勝つって、信じてたから……」

今は強敵を倒した満足感があればいいと思い、綾香の番が来るまで彼女と戯れる事にした。

やはり漫画版万丈目は強い。（後書き）

番外編、綾香の実技試験

「私のターン、ドロー……私は、連弾の魔術師を攻撃表示で召喚……魔法カード、昼夜の大火事を二枚、火炎地獄を一枚発動……貴方に2600と連弾の魔術師の効果で1200ダメージ……さらに、魔法カード強欲な壺……デッキからカードを二枚ドロウ……この瞬間、連弾の魔術師の効果で400ダメージ……」
「うわああああっ!!」

モブ

LP4000↓-200

うわ、バーン強い（笑）

今回のデッキは光と闇の竜と真紅眼の混合デッキです。
天罰がかなり多い理由は自分の光と闇の効果が無効化する為です。
実は、順の手札には飛竜天舞があったので、神の宣告がない場合負けてたという。

次回は決闘無しかもしれませんが、読んでいただくと駄作者は嬉しいです。

後感想も送っていただけると狂喜乱舞します!!

なんかウザい虫がついた。(前書き)

何時もよりクオリティが低いです。すみません。

この世界ヤタガラスって禁止でしたっけ？

なんかウザい虫がついた。

「鏡夜、話を聞いて欲しい……」

「ん？どうしたんだ？」

「最近、ストーカーらしい人がついた……」

「くわしく聞かせろ」

俺の綾香に虫がついた……だと……！？

「なる程……つまり、最近ずっと人に見られている感じがする、と」

「うん……」

許さん。綾香を注視していいのは俺だけなのに！！

「どう社会的にぶち殺してやろうか……」

「鏡夜、思考が漏れてる……」

「おっと、やってしまった」

つい、綾香関係だとなつてしまふな……何時もはもう少し思考を隠したり出来るんだけどな。

まあ、綾香に隠す事なんて無いんだけど。俺は綾香を全身全霊で愛しているし。

「だ、だから思考が……」

「悪い。どうもお前との会話だと思考がただ漏れになるみたいだ」

怒られてる最中に思うのもアレだが、怒っている綾香も焦っている綾香も額縁に入れて飾っておきたい位可愛いな。

「……馬鹿……馬鹿……馬鹿……」

ただそれだけを連呼しながら、俺をばかばかと殴りつける綾香。それを止めず、俺はただされるがままにする。

痛く無いし、真っ赤になって俺を殴りつける綾香の顔も可愛いし。

「……御免。つい、かっとなっちゃった……」

「気にするな。よし、俺も動くとするか」

俺の婚約者に手を出しかけたんだ。ただで済むと思うなよ!!

「一体どういふつもりなんだ!!」

「それはこっちの台詞だ。俺の綾香にストーキング行為をしゃがって……ただで済むと思うなよ!？」

「五月蠅い!!俺が聞きだいののは、どうして俺が退学の危機に陥っているのかということだ!!」

「当たり前だ。ストーキング行為は立派な犯罪だ。普通なら退学のところをあの手——もとい鮫島校長のおかげでチャンスが与えられたんだ。感謝しろ」

あれから僅か二日。俺は伝手を頼って一流のクラッカー集団と組み、

ストーカーを炙り出すことに成功した。

アカデミアは一応学校。多分隠しカメラくらいは設置してあると思っただけ――予想通り。その中にはしっかりとストーカーの姿が映っていた。

それが自称エリート（笑）のブルー生徒だったので、情報が手に入った日は俺と綾香で少し笑ってしまった。

それはともかく、その姿から個人情報炙りだし、今退学させようとしている。

本来なら退学モノだと思うのだが、あの狸校長のせいで、何故か俺とデュエルする事に……。どういうことさ。

まあ、いいや。叩き潰してとっとと豚箱に入って貰おう。

「いくぞ屑！！覚悟はいいか！！」

「誰が屑だ！！」

「「デュエル
決闘！！」」

「先攻は俺が貰うぞ、屑！！」

「誰が屑だ！！」

「ドロー！！俺は、手札から苦渋の選択を発動！！俺がデッキから選ぶのは、ゾンビキャリア二枚、シャインエンジェル二枚、ネクロ・ガードナーだ！！」

あんな屑の話を聞く気なんて欠片もない。綾香に手を出していいのは俺だけだ。それを知ってさっさと散れ。

「ならネクロ・ガードナーを手札に加えろ！！」

「ネクロ・ガードナーか。まあいい。どれを選んでも変わらんさ。

俺は、墓地のゾンビキャリアとシャインエンジェルをゲームから除

外し、表れる！！カオス・ソルジャー——開闢の使者——！！」
「な、なんだと！？」

表れる断罪の騎士。今回はコイツでケリをつける。

「手札から強欲な壺を発動。デッキからカードを二枚ドロ……ふむ」

どうけりをつけようかな……迷うな。

「俺は、キラートマトを守備表示で召喚。カードを二枚伏せ、ターンエンドだ」

鏡夜

LP4000

場

カオス・ソルジャー——開闢の使者——（攻撃力3000）

キラートマト（守備力1100）

伏せカード二枚

手札6枚↓2枚

「くつ、俺のターン、ドロ——！！」

さあ、どう出やがろうとお前の未来は死あるのみ！！

「俺は、モンスターをセット！！カードを二枚伏せ、ターンエンドだ——！！」

ブルー生徒

セットモンスター×1

伏せカード二枚
手札6枚↓3枚

なんだ。あまりに普通過ぎて笑えてきた。

「俺のターン、ドロー」

面倒だし、さっさと終わらせ。こんな屑に裂いてる時間があつたら、他の事をやりたいし。

「魔法カード、天使の施しを発動。カードを三枚引いて二枚捨てる。墓地の三体の闇属性がいるので、こいつを特殊召喚する。来い。ダークアームドドラゴン」

出ましたダムド。これでさっさとけりをつけよ。

「ダークアームドドラゴンの効果発動。墓地の闇属性モンスター一体を除外する事で、フィールドに存在するカード一枚を破壊出来る。俺は、三体の闇属性モンスターを除外して、屑の場にあるカード三枚を破壊する」

「リバースカードオープン！！和睦の使者！！このターン、俺は戦闘ダメージを受けない！！」

「チツ、防いだか。カードを一枚伏せ、ターンエンド」

鏡夜

場

カオス・ソルジャー——開闢の使者——（攻撃力3000）

キラートマト（守備力1000）

ダークアームドドラゴン（攻撃力2800）

伏せカード三枚

手札3枚↓1枚

「くっ、俺のターン、ドロー!!よし、フィールド魔法、天空の聖域を発動!!天使族モンスターでの戦闘ダメージが無くなる!!永続魔法、神の居城―ヴァルハラ―を発動!!その効果で、堕天使アスモディウスを特殊召喚!!バトルだ!!堕天使アスモディウスでダークアームドドラゴンに攻撃!!」

「リバースカードオープン、次元幽閉。相手の攻撃モンスター一体をゲームから除外する」

「なん……だと……?」

次元の裂け目に飲み込まれていくアスモディウス。除外なのでその厄介な効果は発動されない。

「くっ、ジェルエンデュオを守備表示で召喚!!ターンエンド!!」

ブルー生徒

ジェルエンデュオ(守備力0)

さあ、どう調理してやるのか!?

「俺のターン、ドロー!!魔法カード、天よりの宝札!!互いのプレイヤーは、デッキから手札が6枚になるようにカードをドロースる!!」

なんか屑がにやついているが、このターンで終わるんだぞ?

「手札から、魔法カード手札抹殺を発動!!手札を全て捨て、デッキからその数だけドロースる!!」

……よし、いい手札が揃った。

「リバースカード、リビングデッドの呼び声を発動！！墓地の墮天使スペルビアを特殊召喚！！さらに、スペルビアの効果で、墓地の天使族モンスター一体を特殊召喚出来る。表れる、墮天使ゼラート！！さらに、ゼラートの効果発動！！手札の闇属性モンスター一体を捨て、相手フィールド場にあるカードを全て破壊する！！」

「な、なんだと！？」

無惨にも破壊されていくジェルエンデュオ。これで屑の場は何もない。

「終わりだ。しっかりと反省しながら逝け！！全モンスターでダイレクトアタック！！」

「う……うわああああっ！！」

ブルー生徒

LP 4000 ↓ 2600 ↓ - 200 ↓ - 3200 ↓ - 6000

「鮫島校長。コイツをしっかりと豚箱に叩き込んでおいて下さい」

しっかりと釘を刺しておく。ああだこうだと理由をつけられるのが嫌だから。

「わかりました。ですが、それとは別で私からも一つ頼みがあるのですが」

「何ですか？俺はさっさと帰って綾香といちゃつきたいんですが」

「亮と戦ってくれませんか？」

「……は？」

どういふことだ？

なんかウザい虫がついた。（後書き）

リクエストがあつた開闢を出してみました。実際にはスペルビアを入れない方が多分回ります。

闇属性軸なのでダムドがすごい出しやすくなります。光属性はコーリング・ノヴァとシャインエンジェル、マシユマロンくらいしか入ってませんが（笑）

闇の方は、クリッター、キラートマト、ダーク・グレファアをしつかりと積んで、ダムドやクリエイター、カオス・ソーサラーを適当に混ぜとけばいいのではないのでしょうか。

後はおろかな埋葬など、デッキからカードを墓地へと送れるカードですかね？

次はキャラ設定、その次は丸藤亮戦へと行くので、見捨てないで下さい（土下座）

ミスが多い作者なので、見つけ次第報告をお願いします！！

キャラ設定（前書き）

なんか、書く度にクオリティが低くなっているような……

キャラ設定

主人公

夜光鏡夜（男）

年齢…… 16歳

身長…… 183

体重…… 57

髪の色…… 黒

瞳の色…… 黒

備考

気がついたら遊戯王GXの世界にいた転生者。とある理由で綾香と邂逅し一目惚れする。無視されたり、罵倒されたりしながらも時間をかけて仲良くなるがとある事件をきっかけにお互いに気持ちに気づき、婚約者となる。

決闘においては、ただの最強バカ。神がかった鈍感スキル、黄金律、チートドロ（十代未満）も兼ね備えている。

既に婚約指輪は送っており、式の準備も済ませている。綾香に手を出す者は誰であろうと社会的にブチ殺すby鏡夜

第6話までの使用デッキ

未来オーバー

お触れホルス
アルティメットワンフー
光と闇の竜
リクルーターカオス

ヒロイン

桜野 綾香

年齢…… 16

身長…… 143

体重……（秘密……）

B76W46H63

髪の色、瞳の色共に黒

クールツンな眼鏡っ子。転生者。とある事件によって鏡夜を意識していたらい、彼にデレまくっている。それ以外の人には基本的に無関心なスタンスをとり続けている。鏡夜が出会った当時は人を寄せ付けないような性格だったが、だいぶ丸くなったらしい。

鏡夜命な面があり、彼を馬鹿にする物は誰であろうと容赦ない。使用デッキからもわかるようにワンキル大好き。

宝物は、鏡夜から送られた婚約指輪。肌身離さず身につけている。

鏡夜は……私の物……by綾香

第6話までの使用デッキ

連弾バーン
デミスドーザー

ユニーク10000、アクセス50000ありがとうございます。御座います。
駄作者の無限の剣製作者です。これからも応援のほうをよろしくお
願います。

それでは、本編に入ります。
短いですがお楽しみいただけると嬉しいです。
ちなみに今回決闘はありません。

「全く、面倒な事になった……」
「まあ、しょうがない……校長先生直々のお願いだし……」
「それはそうけどさ」

あの後、交渉のすえ俺と綾香の単位一年分でカイザー——丸藤亮と
の戦いをする事になった。
俺としては受ける気など全く無かったのだが、綾香が上目使いでお
願いして来たのと鮫島校長の条件がそこそ魅力的だったので俺は
受けることになった。

それにしても――

「完璧決闘者、ねえ」
パーフェクト

「本当に、笑えるよね……たかがあれごときで完璧なんて……」

綾香と共に笑う。その対象があの程度で皇帝と言うアカデミアの低レベルなのか、完璧と言われて慢心している丸藤亮に対してなのかあるいは、両方なのか。まあ、多分俺達は後者だろう。

丸藤亮のチートドロ―は確かに恐怖だ。だが、最善の手を常に出す事が出来るというのが必ずしも最良というわけではない。

まあ、今はそんな話はどうでも良くて。

「せっかくだし、砂浜の方に出掛けてみるか？」

「いいね……今から用意する……」

「ありがとな」

今は、綾香との日を楽しもう。

「夜の海も、ロマンチック……」

「だろ？」

夜七時。星が出て来る中、俺と綾香は砂浜に座って海を眺めていた。互いに、互いの手を握りあいながら。

「こうしてると、鏡夜と始めてあった時を思い出す……」

「ああ、あの時か。あの時の綾香は、色々と酷かったな」

「私も気にしてるんだから……言わない……」

「悪い、悪い」

始めて会った綾香の姿を思い出し、苦笑する。今の綾香とは似ても似つかない、それでいてどこかが似ている、そんな彼女の姿を。

「実は……ね……」

「ん？」

「会った時、酷いことをたくさん言っちゃったけど……私は、始めて会った瞬間から貴方の事が好きだった……」

「そつか。俺と同じだな」

「……え……？」

「俺も、始めてお前の顔を見た瞬間から、お前の事を愛してるんだよ。そうじゃなきゃ、わざわざ罵られながらもお前と一緒にいるわけ無いだろ？」

「……そう言えば、そうだね……」

「当たり前だ」

互いに笑いかけ、お互いの顔が近づき、

「……ずっと、私と一緒にいてね？」

「当たり前だろ」

俺と綾香の唇の距離が、零になった。

ここからは、俺達のプライベートタイムだ。描写することは出来ない。

ただ一つ言えるのは、朝日がやけに眩しかった、ということだけだ。

キャラ設定（後書き）

次はカイザーこと丸藤亮戦。よければお読み下さい。

禁止・制限を守っているのに卑怯と言われる筋合いはない。(前書き)

カイザー涙目(笑)

禁止・制限を守っているのに卑怯と言われる筋合いはない。

「……どういうことだ？」

カイザーこと丸藤亮との決闘の日。

俺は予定されている場所——校内のデュエル場——に赴いたのだが、そこにいたのは、見渡す限りの人。

明らかに契約違反なので、俺は携帯を用いて鮫島校長に連絡する。

「確か非公開という約束では？」

「いやはや、すみません。私はそう手配したのですが、どうやら情報が漏れてしまったようです」

……この狸が。

「ああ、そうですか。では、契約違反の代償は後でいただきますね」
言いたい事だけを言い、俺は電話を切る。どうせ、その情報をあえて漏らしたに決まっている。

何故なら——俺が、奴らの言う『リスペクト決闘』をしていないのだろう。

サイバー流の言う『リスペクト決闘』の実態は、カウンター罠やハズレを批判し、圧倒的な攻撃力で敵を叩き潰す決闘だ。

正直、俺はそれが嫌いで嫌いで仕方がない。決闘というものに卑怯や汚いといった言葉が介入する余地はないと思うし、それは結局は敗者の戯言であり、聞く価値のないものだ。

だが、サイバー流はそれを異端とし、リスペクトという綺麗事を言い続ける。弱い相手ならそれでも全く問題はない。だが、同格相手

にそんな事をしてみれば間違いなく負ける。原作で、エド・フェニックスと丸藤亮が戦って丸藤亮が負けたのも結局はそこから来た物だろう。

そして、問題なのはあのサイバー流師範である鮫島校長が、そんな考え方をしている俺が気に入らず、皇帝と呼ばれている丸藤亮と戦って負け、サイバー流は強いというのを他の生徒達に知らしめる為にこうしたんだろう。ようはていのいい見せしめだ。

まあ、負ける気は全くないけどね。

「待たせたな、丸藤亮」

「いや、そこまで待つてはいない。では、始めるか」

「ああ、いいぜ」

「^{デュエル}決闘!!」

side 綾香

「ついに始まったわね、カイザーとイヴァン（雷帝）との戦いが」「イヴァン？何それ……」「鏡夜についた異名よ。なんでも、圧倒的な力を持ちながら妥協する事をせず、相手を叩き潰す事からつけられたらしいわ」

何？その厨二くさい異名は……

まあ、今はそこら辺はどうでもいい……鏡夜の決闘を見ないと……べべべ別にいつもこんな風に何時もこんな風に鏡夜を注視し

ているわけじゃないんだから……

「俺のターン、ドロー。俺は豊穡のアルテミスを攻撃表示で召喚。カードを四枚伏せ、魔法カード命削りの宝札を発動。デッキから手札が五枚になるようにドローし、五ターン後に全ての手札を捨てる。ターンエンドだ」

鏡夜

LP4000

場

豊穡のアルテミス（攻撃力1600）

伏せカード四枚

手札6枚↓5枚

今回はそのデッキなの、鏡夜……
いつになく厳しいデッキを使ってる……

「俺のターン、ドロー!!」

「リバースカード、カウンター罠強烈なはたき落としを発動。ドロしたカードを捨てる。さらに、豊穡のアルテミスの効果でデッキからカードを一枚ドローする」

「なんだと!？」

大人しく手札を墓地に送るカイザー。あれは……多分リミッター解除かな……

最初にドローしたのがリミッター解除って、チートドローにもほどがある……

「くつ、俺は魔法カード、パワーボンドを発動!!」

「却下、だよ。カウンター罠、封魔の呪印を発動。手札のハリケー

ンを捨て、パワーボンドを無効にする。封魔の呪印の効果、このカードが無効にした魔法カードはこの決闘中使用出来ない」
「何っ!？」

さらにこれでパワーボンドが封じられた……そして、鏡夜の手札には……

「カードの効果のカウンター罠で無効にした事により、冥王竜ヴァンダルギオンを特殊召喚。さらに、ヴァンダルギオンの効果で、お前に1500ポイントのダメージを与え、豊穣のアルテミスの効果でデッキからカードを一枚ドロ―する」

「く……やるな!!」

丸藤亮

LP4000↓2500

場は圧倒的に鏡夜が有利で、なおかつパワーボンドを封じこめた……
……でも、多分カイザーの手札には……

「俺はサイバー・ドラゴンを攻撃表示で特殊召喚!!」

サイバードラゴンが二枚はある……

「さらに俺は魔法カード天使の施しを発動!!デッキからカードを三枚引いて二枚捨てる!!俺は、サイバー・プロト・ドラゴンを攻撃表示で召喚し、速攻魔法フォトン・ジェネレーター・ユニットを発動!!フィールドのサイバー・ドラゴンとサイバー・ドラゴン扱いのサイバー・プロト・ドラゴンを生贄に捧げ、サイバー・レーザ―・ドラゴンを攻撃表示で召喚!!」

……何?このチートドロ―……

「サイバー・レーザー・ドラゴンの効果発動！！ターンに一度、このモンスターよりも攻撃力が守備力の高いモンスターを破壊出来る！行け、サイバー・レーザー・ドラゴン！！ヴァンダルギオンを破壊しろ！！破壊光線フォトン・エクスターミネーション！！」
「……くっ、ヴァンダルギオン！！」

鏡夜は何もすることが出来ずヴァンダルギオンが破壊される……でも、あの鏡夜が何も出来ないなんてことが……まさか、そういうことなの……？

「サイバー・レーザー・ドラゴンで攻撃！！エヴォリューション・レーザーショット！！」

「その攻撃は通さん。カウンター罠、攻撃の無力化を発動。その攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了させる。豊穣のアルテミスの効果、デッキからカードを一枚ドロ」
「くっ、ターンエンドだ！！」

丸藤亮

LP 2500

場

サイバー・レーザー・ドラゴン（攻撃力2400）
手札6枚↓1枚

「俺のターン、ドロ。二枚目の豊穣のアルテミスを守備表示で召喚。豊穣のアルテミスを守備表示に変更し、カードを四枚伏せてターンエンドだ」

鏡夜

LP 4000

場

豊穰のアルテミス×2（守備力1700）

伏せカード五枚

手札7枚↓2枚

「俺のターン、ドロー！！魔法カード、強欲な壺を発動！！デッキからカードを二枚ドロー！！」

「ドローフェイズ時にリバース罠、サンダーブレイクを発動。手札一枚をコストにフィールド場のカード一枚を破壊する。俺は、サイバー・レーザー・ドラゴンを破壊」

「くっ……」

雷が放たれサイバー・レーザー・ドラゴンが破壊される………もうカイザーに出来ることは殆どない……

「俺はサイバー・ドラゴンを攻撃表示で特殊召喚！！バトル！！サイバー・ドラゴンで豊穰のアルテミスに攻撃！！エボリューション・バースト！！」

「カウンター罠、攻撃の無力化。バトルフェイズを終了させる。豊穰のアルテミスの効果で二枚ドロー」

攻撃の無力化が強欲な壺の効果を兼ね備えてる………アルテミス怖い………

「くっ、俺はカードを二枚伏せ、ターンエンド！！」

「エンドフェイズ時に速攻魔法サイクロン。俺から見て右側の伏せカードを破壊」

破壊されたのは聖バリ………もう、私は驚かない………

丸藤亮

LP 2500

場

サイバー・ドラゴン（攻撃力2100）

伏せカード一枚

手札3枚↓0枚

「俺のターン、ドロー。魔法カード地割れを発動。相手フィールド場に存在する攻撃力が一番低いモンスターを破壊する。消えるサイバー・ドラゴン」

「リバーズ罠、アタック・リフレクター・ユニットを発動！！フィールド場のサイバー・ドラゴンを生贄に捧げ、来い、サイバー・バリア・ドラゴン！！守備表示！！」

「カウンター罠、神の宣告。ライフを半分支払い、アタック・リフレクター・ユニットを無効にして破壊する。サイバー・ドラゴンはコストだから戻って来る、なんて事はない。残念だったな」

鏡夜

LP 4000 ↓ 2000

消えていくサイバー・バリア・ドラゴン……伏せカードもない……
鏡夜の勝ち、ね……

「これでTHE ENDだ。豊穰のアルテミス二体でダイレクトアタック」

「ぐああああああ！！」

丸藤亮

LP 2500 ↓ - 700

会場内が静まり返ってる……当たり前かもしれないけど……
あそこまでひたすら使うカードを無効にされまくったら、何も出来ない……

そして……

「一つ教えてやるよ、丸藤亮」

「……なんだ」

あんなチートドロ―持ち相手に、鏡夜は――

「最初のターン伏せたカードに天罰が、次のターンに伏せたカードに二枚目の強烈なはたき落としがあつた。恐らくどちらかでも使つていればもっと楽に勝てただろうな」

――徹頭徹尾、手を抜いていた……

「なん、だと……？それでは、何故それを使わなかった!!」

「……リスペクト、だっけか？お前達がやることは。それを、俺もやってみただけだ」

「手を抜くことと……リスペクトは……違う……!」

「やってることは同じだ。相手の全力が見たくて相手に本気を出させ、その上で相手を倒す。その、どこが手抜きじゃないんだ？」

「そ、それは……」

何も言えないカイザー……でも、そうなるのも当たり前……

だって……自分がやっている事と同じ事をされ、それを指摘されたのだから……

「俺は、今までこんな決闘を行って来たのか……対戦相手をリスペ

クトすらせず、見下すような決闘を……」

「——もし、変わりたいのなら、後で俺の部屋に來い。さてと、綾香、さっさと帰ろうぜ」

厳しい言葉とは一転して笑顔を私に向けてくれる鏡夜……
そんなのだから……

「しょうがない……どうしても、って言うなら、帰ってあげてもいい……」

私はつい、ツンツンしちゃう……

禁止・制限を守っているのに卑怯と言われる筋合いはない。（後書き）

丸藤亮

初期手札

サイバー・ドラゴン×3

パワーボンド

天使の施し

一ターン目

ドロー、リミッター解除を手札に加える。

パワーボンドを使いサイバー・エンド・ドラゴンを召喚。攻撃時にリミッター解除を発動。

魔法カード、天使の施しを発動。引いたカードはサイバー・プロト・ドラゴン、サイバー・ジラフ、フォトン・ジェネレーター・ユニット

次のターン、ドローしたカードは強欲な壺。使用し引いたカードは聖バリ、アタック・リフレクター・ユニット

以下詳細不明

……カイザーのパーフェクトチートドローきょうしつ状態ですね……
こんなん勝てるか。

今回の使用デッキは冥王パーミです。カイザーを完全に封じて勝つにはどうしようか、と考えたらこうなりました（笑）

ギアル様、決め台詞使用させていただきました。ありがとうございます御座い

ました。

感想はいつでも募集中なので送っていただけると嬉しいです。ただ、作者のメンタルは紙より脆いので誹謗中傷だけはお止め下さい。お願いします。

次回更新も何時になるか解りませんが、見捨てず待っていてくれるとありがたいです!!!

リスペクト？そんなもの犬にでも食わせておけ（前書き）

なんか長くなった（笑）

リスペクト？そんなもの犬にでも食わせておけ

side 十代

「すげえ……あのカイザーが何も出来ずに負けたぜ……」

今日にした決闘を見て、本当に鏡夜は強いんだな、って思う。

もし、あんなデッキと戦ったら……俺は、何も出来ずに負けるんだろうな。

あの封魔の呪印ってカウンター罠だけでも使われたら厄介だぜ。俺の融合が完全に封じられるからな。

それにしても、隣でぶつぶつ言ってる翔の奴……本当に大丈夫か？

side 十代 end

side 翔

「認めない……」

僕は、絶対に認めない。

お兄さんが、あんな卑怯なデッキに負けるなんて。

大体あんなデッキリスペクトの欠片も無いようなデッキじゃないか。そんなデッキを使ったんだから、今の勝負は無効だ。

そして、僕は夜光鏡夜、お前を認めない。

サイバー流を汚すような真似をし、封魔の呪印なんて卑怯なカウンター罠を使い、相手にリスペクトの欠片も無いようなデッキを使っ

たお前を認めない。

そつだよね？それで合つてゐるよね？お兄さん……

side 翔 end

side 亮

「俺は……今まであんな決闘を……」

今までのプレイングを思い返し、俺は昔の自分をぶん殴りたい気持ちでいっぱいになっていた。

何がリスペクトだ。何が相手の事を考えたデュエルだ。

そんなもの……ただの自己満足じゃないか！！

そして――

「もう俺はこれ以上……あんな負け方はしたくないっ！！」

――今の俺を襲うのは、経験したことのない飢餓感。

負けたくない。

あんな負け方はしたくない。

勝ちたい。

相手を叩き潰して勝ちたい。

勝利が。

勝利が欲しい。

そんな色々な気持ちに見舞われながら、俺が目指していたのは――
イエロー寮の、夜光鏡夜の部屋。

――奴なら、その答えを知っているだろうか？

そんなことを考えながらもドアをノックすると、出て来たのは、奴ではなかった。

「……ようこそ、カイザー……」

「……お前は？」

出迎えたのは、夜光鏡夜ではなく、小さな、それでいて芯の強そうな、女子。

「早く来て……鏡夜が待つてる……」

「あ、ああ」

案内されるままについていくと、そこにいたのは、

「まさか、本当に来るなんてな。でも、歓迎するぜ。『帝王』丸藤亮」

スニーカーの中をいじっている俺を完膚なきまでに叩き潰した男の姿だった。

「……どうぞ」

「ああ、ありがとう」

麦茶を持ってきてくれた女子に礼を言いながらも、夜光がこちらを向くのを待つ。

——しかし、両手で持てるかどうかのスニーカーが数個あるというのは、一体どうなんだろうか。

「……鏡夜が今カードを探しているのはカイザー、貴方の為……」

……なんだと？

「どういう意味だ？」

「そのままの意味……鏡夜は、素直に変わりたいと願った貴方の為に、わざわざ」

「そこまでにしてくれ、綾香。誉められると恥ずかしい」

そう言つて、こちらを向く夜光。その手には、一つのデッキが握られていた。

「さあ、もう一度決闘しよう。あんな負け方はお前も嫌だろう？もう一度だけ、戦つてやるよ」

「お前が……教えてくれるのではないのか？」

「馬鹿を言つな。俺が与えてやれるのは、切欠だけだ。答えなんざ自分で見つける。——行くぞ」

「「^{デュエル}決闘！！」」

はい、どうも鏡夜です。しかし、俺が誘つたとは言え本当に来るとは思つていなかった。

「先行は俺が貰つてやる、ドロー！！」

まあ、来たからには全力で叩き潰すがな。

「俺は手札から未来融合―フューチャー・フュージョン―を発動！F・G・Dを選択し、デッキからドラグニティ・ブランドイストック、ドラグニティアームズ・レヴァティン、SINTウルース・ドラゴン、ハウント・ドラゴンを二体墓地に送る！！そして、カー

ドガンナーを召喚！！効果で、カードを三枚墓地に送り、このターンのみ攻撃力を1500ポイントアップさせる！！」

墓地に送られたのは、サイバー・ダーク三種。まさかこんなに早く落ちるなんてな。

「カードを二枚伏せ、ターンエンド。この瞬間、カードガンナーの攻撃力は元の400に戻る」

鏡夜

LP4000

場

カードガンナー（攻撃力400）

伏せカード二枚

未来融合―フューチャー・フュージョン―（F・G・D選択、0ターン目）

手札6枚↓2枚

「俺のターン、ドロー！！魔法カード、パワーボンドを発動！！手札のサイバー・ドラゴン三枚を融合！！表れる、サイバー・エンド・ドラゴン！！」

表れる三つ首の機械竜。いつも思っけどどんな詰め込みしてるんだ？

「サイバー・エンド・ドラゴンで攻撃！！エターナル・エヴォリューション・バースト！！」

「リバーズカードオープン！！ガードブロック！！戦闘ダメージを0にし、デッキからカードを一枚ドロウする！！さらにカードガンナーの効果、このモンスターが破壊された時、デッキからカードを一枚ドロウ！！」

これで合計二枚のドロー。墓地肥やしも出来て手札補充も出来るガンナーはマジ強い。

「くつ、防いだか。俺はサイバー・ジラフを召喚し、このターンの効果ダメージを0にする。カードを一枚伏せ、ターンエンドだ」

丸藤亮

LP 4000

場

サイバー・エンド・ドラゴン（攻撃力4000↓8000）

伏せカード一枚

手札6枚↓0枚

「俺のターン、ドロー」

さて、ハンド・アドバンテージは明らかにこちらが上。相手の場には攻撃力8000がいるが、倒し方などいくらでもある。

「俺は魔法カード、テラ・フォーミングを発動し、竜の渓谷を手札に加え、フィールド魔法、竜の渓谷を発動！！」

表れる渓谷。このデッキのメインと言ってもいいカードの一つ。

「竜の渓谷の効果、手札を一枚捨ててドラゴン族モンスターを一枚捨てる。サイバー・ヴァリーを召喚し、カードを一枚伏せ、ターンエンドだ」

鏡夜

LP 4000

場

サイバー・ヴァリー（攻撃力0）

伏せカード三枚

未来融合―フューチャー・フュージョン―（F・G・D、一ターン経過）

手札5枚↓1枚

サイバー・ヴァリー。本当に便利なカードなのに攻撃力が全ての世界じゃあんまり使われない、優秀なカード。

絶対にゴブリン突撃部隊よりも優秀だと思っただけだな。

「俺のターン、ドロー！！魔法カード、強欲な壺を発動！！デッキからカードを二枚ドローする」

……なんで手札0で毎回毎回それを引けるんだよ、こいつは！！
どんだけ詰め込んでるんだ！！

「サイバー・エンド・ドラゴンで攻撃！！エターナル・エヴォリューション・バースト！！」

「リバーカードオープン、次元幽閉！！相手攻撃モンスター一体をゲームから除外する！！消えろ、サイバー・エンド・ドラゴン！！」

「なんだと！？」

次元の裂け目に飲み込まれ消えていくサイバー・エンド・ドラゴン。別にヴァリーの効果を使っても良いんだけど今の内に消して起きたかった。

理由？それは――

「カードを二枚伏せ、ターンエンドだ！！」

丸藤亮

場

伏せカード3枚

手札0枚↓0枚

「俺のターン、ドロー!!」

出来るだけこいつを追い詰める為だ。

「スタンバイフェイズ時に未来融合の効果でF・G・Dを特殊召喚する。表れる、F・G・D!!」

「リバースカードオープン!! 奈落の落とし穴!! F・G・Dを除外する!!」

除外されるF・G・D。別に問題ないけどな。

「魔法カード、強欲な壺を発動。デッキからカードを二枚ドロー。カードガンナーを召喚し、効果発動。デッキの上から三枚を墓地に送る」

落ちたたのは、聖バリ、竜の渓谷、サイバー・ヴァリー。少し痛いけどまあ問題ない。

「サイバー・ヴァリーの効果、このカードと自分フィールド場のモンスター一体、カードガンナーを除外して二枚ドロー」

……来たか。来るのが遅いが仕方ない。

「魔法カード、サイバー・ダーク・インパクト!!を発動!! 墓地のサイバー・ダーク・ホーン、サイバー・ダーク・キール、サイバー・

ダーク・サイバー・ダーク・エッジをデッキに戻し、降臨せよ！！
鎧黒竜サイバー・ダーク・ドラゴン！！」

手札を補充しまくってようやく出せたこのデッキの切り札。最強クラスの効果誇る。

「なんだ、その禍々しいモンスターは……」

ああ、そういえば知らないんだっけ、裏サイバー流を。

「こいつは裏サイバー流デッキの切り札、サイバー・ダーク・ドラゴンだ」

「そんなサイバーモンスター、俺は知らない！」

「だから言っているだろ、裏サイバー流デッキ、だとな」

「……どういう意味だ？」

……こいつ、鈍いな。

「裏サイバー流とは、リスペクトを主とする表サイバーとは違う、勝利を求める為には何でもやる、そんなデッキだよ。要するにリスペクトを捨てた、な」

「なん……だと……？」

お、驚いてる驚いてる。だが、まだ終わらんよ！！

「サイバーダーク・ドラゴンの効果、墓地のカードの数×100ポイント攻撃力を上昇させる！！また、サイバー・ダーク・ドラゴンの効果で、墓地のSINTウルース・ドラゴンを装備し、その攻撃力・守備力を吸収する！！」

鏡夜

場

鎧黒竜サイバー・ダーク・ドラゴン（攻撃力1000↓2700↓
7700）

伏せカード二枚

「バトルだ！サイバー・ダーク・ドラゴンでダイレクトアタック！
！フル・ダークネス・バースト！！」

「リバースカードオープン、和睦の使者！！このターン、俺は戦闘
ダメージを受けない！」

「……防がれたか。まあいい、ターンエンドだ」

鏡夜

LP4000

場

鎧黒竜サイバー・ダーク・ドラゴン（攻撃力7800）

伏せカード二枚

「……嫌だ……」

来た、か。

「嫌だ、俺は、負けたくない……俺は……勝ちたい……っ！！」

人間は、極限状態になると自分でも思っていなかった本性が出ると
いう。

そして、俺は丸藤亮を極限状態にまで追い詰めた。

その結果が——これだ。

「俺のターン、ドロ―!!魔法カード、壺の中の魔導書をを発動!互いのプレイヤーは、デッキからカードを三枚ドロ―する!!」

ここで手札増強カードとは、いい加減にしてほしいものだ。

震える手でカードを引き、そのカードを見て――丸藤亮は動きを止めた。

「……どうした?やらないのか?」

「駄目だ。これは、リスペクトに……」

「お前は変わりたくてここに来たんだろ?今までの決闘を思い返して、何か思う所があったから来たんだろ?なら――使え。勝利が欲しいのなら、どんな手段でも使い、徹底的に相手を叩き潰せ。そうでなければ、お前は勝利を手に出来ない」

「――ッ!!それは――」

「全員必死になって勝とうとしているんだよ。お前はいい、そのドロ―力がある。だが、それがない奴でも、必死になっているんだ。

お前も、今勝ちたいんだろ?なら、使え!!今その手にある可能性を!!」

言葉はない。しかし、目が変わった。

今までのようなリスペクト重視の目から、勝利を求める獣の目へと。

「俺はサイバー・プロト・ドラゴンを召喚。速攻魔法、サイクロンを発動し、装備カード扱いのS I N T ウルース・ドラゴンを破壊する」

鎧黒竜サイバー・ダーク・ドラゴン攻撃力7800↓2900

「魔法カード、オーバーロード・フュージョンを発動!!!場のサイバー・プロト・ドラゴンと墓地のサイバー・ドラゴン三体、サイ

バー・ジラフを融合！！これが、俺の求める全てだ！！来い、キメラテック・オーバー・ドラゴン！！」

丸藤亮

場

キメラテック・オーバー・ドラゴン（攻撃力800×5＝4000）

「バトルだ！！キメラテック・オーバー・ドラゴンでサイバー・ダーク・ドラゴンに攻撃！！エヴォリューション・レザルト・バースト！！」

「リバースカードオープン！！リミッター解除！！自分の場の機械族モンスターの攻撃力を二倍にする！！」

「それにチェーンしてリバースカードオープンオープン！！速攻魔法リミッター解除！！」

ああ、本当に良くやったよ、丸藤亮。だが――

「リバース罫発動。カウンター罫神の宣告。ライフを半分払いリミッター解除を無効にして破壊する」

「何っ！？」

まだまだ甘い。

鏡夜

LP4000↓2000

場

サイバー・ダーク・ドラゴン（攻撃力2900↓5800）

丸藤亮

LP4000↓2200

場
無し

「そ、そんな……」

無残にも破壊されていく機械の竜。今回も俺の勝ちみたいだな。

「……ターン、エンドだ……」

エンドフェイズ時にサイバー・ダーク・ドラゴンは

破壊されていく。が、俺の手札には既に決着をつけられるカードがある。

「俺のターン、ドロ。サイバー・ダーク・エッジを召喚。効果で墓地のハウント・ドラゴンを装備する」

鏡夜

LP 4000

場

サイバー・ダーク・エッジ（攻撃力800↓2500）

「今回も俺の勝ちだ。サイバー・ダーク・エッジでダイレクトアタック――！」

「う……っおおおおお――！」

丸藤亮

LP 2200↓-300

リスペクト？そんなもの犬にでも食わせておけ（後書き）

鎧黒竜、サイバーダークドラゴンでした。

しかし、この世界の未来融合制限無しは酷すぎますね。

HEROであれば、トリニティー選択↓ミラクル・フュージョンが簡単に出来、今回のデッキであればサイバーダーク・インパクト！かオーバードロード・フュージョンで簡単に攻撃力5000超えが揃う……

うわ、鬼畜。

そして今回。レヴァが墓地にあつたのに特殊召喚してないorz

サイバーダークでとどめを刺したかったんですよ。

では次回。何時になるかわかりませんがまたお会いしましょう。

ウザイ奴らに自重は一切ない。(前書き)

ごめんなさい。またワンキルです……

ウザイ奴らに自重は一切ない。

「俺の勝ちだ、丸藤亮」

俺は、そう静かに、まるで一人事のように呟いた。

「ああ、そして、私の敗北だ……」

そして、亮も静かに敗北を認めた。

「……で、格好つけて部屋に返すなんて……何考えてるの……？」
「あいつにも気持ちの整理位必要だろ？」

朝。いつものように綾香の作った朝食と一緒に食べ、登校している中、昨日の事で鋭いツツコミを受けた。

何故一緒に暮らしているのかは後にするとして、ツツコミを受けた理由は決闘で決着がついた後、俺は亮を部屋に一度返したからだ。

『もし、今の勝ちたい、という気持ちがあるのなら、お前のデッキを強化してやるよ』と言い、サイバー・ダークのデッキを渡して。まあ、多分亮は俺の下に来るだろう。貪欲に強さだけを求めて。

さて。現実逃避は後にしようか。

「隠れている奴ら、さっさと出て来い。俺を倒したいんだろ？」

そう宣告すると、多くの生徒が俺の前に姿を現す。その数、約五十人。

「で、なんの用だ？俺は今から登校するんだが」

「惚けたことを……」

「さっさと私達と決闘しろ」
デュエル

……はあ。またコレ（・・・）か。

「何故俺がお前ら雑魚と戦わなければならない？時間の無駄なんだがな」

「俺達は貴様を肅正しに來ただけだ！！」

「肅正？何故だ？何も悪い事はしていないはずだが」

「減らず口を……！！貴様がリスペクトに反するデッキばかりを使う、それ自体が罪だ！！」

今日、俺は既に三回は決闘デュエルしている。その相手は全て似たようなリスペクト狂信者。

なんでも奴らは自分達リスペクト決闘最強の使い手である亮が俺に負けた事が不満らしい。

そして、その理由として俺の冥王パーミを卑怯と言い、俺の事を罪人のように言い決闘デュエルを仕掛けてくる。全くもって不愉快だ。

そして、一番不愉快なのは俺が負ける事をほぼ全ての生徒が望んでいる事だが——それは今はどうでも良い。

「さあ、構えろ！！この人数相手なら例え貴様だろうと勝てはしな

い!」

「……何? 1VS50?」

「当たり前だ!―これは聖戦なのだから、何人いようと反則にはなりはしない!」

……ちよーつと、イラツときた。まあ、使うデッキは変わらないけど。

「綾香。すまない、先に行ってくれるか?」

とりあえず綾香を先に行かせないと。このままだと遅刻する。

「……なんで?」

「いや、なんで、と言われても……」

遅刻するからなんだけど……まさか、待っててくれるのか?

「私は貴方の側から片時も離れない……あの時誓った事、もう忘れた……?」

「いや、忘れたわけじゃ無いんだけど……遅刻するぞ?」

「そんなものだっていい……私は、貴方の側にいられたらそれで……じゃなくて、貴方が一人で遅刻するのが可哀想だから、私も一緒に遅刻してあげるだけ……」

本音が漏れている上にツンツンしている綾香は本当に俺得です。別に授業に出なくていいんだけどね。一年分の単位は全部貰ってるし。

「じゃ、このまま授業をサボタージユして××××でもするか?」

「うん……そうしょ……」

「無視するな！！兎に角さっさと構えろ！！」

はいはい、わかりましたよ、っと。

「じゃ綾香、少し待っててくれ。終わらせて来るから」

「うん……頑張って……」

綾香からの激励は何よりも力になります。さてと。

「相手してやる。来るがいい」

「嘗めやがって……行くぞデメラー！！」

「おう！！そしてリア充は死ね！！」

「『決闘！』^{デュエル}！！」

side 綾香

「また、やっているのか、夜光は……」

「カイザー……」

まさか、本当に来るなんて……流石、鏡夜……

「先行は俺が貰ってやる。ドロー。魔法カード、強欲な壺を発動。デッキからカードを二枚ドロー。魔法カード、天使の施しを発動。カードを三枚ドローして二枚捨てる。魔法カード、闇の誘惑を発動。」

カードを二枚ドロし、手札の闇属性モンスター、クリッターを除く。魔法カード、おろかな埋葬を発動し、デッキから暗黒のマンティコアを墓地に送る」

「なんだあ？手札交換におろかな埋葬みたいな使えないカードばかり使いやがって。そんなんで俺達に本気で勝つ気なのか？」

……あ、敗北フラグが立った……

「黙ってる。永続魔法、生還の宝札を発動。ターンエンドだ」

「ハッハッハッハッ、こいつ、モンスターも伏せカードも無いぜ？」

「どんな手札事故を起こしたんだろうな……！」

……あ、鏡夜が笑ってる。まあ、仕方ない……

悪夢の、始まりなのだから……

「エンドフェイズ時に墓地の暗黒のマンティコアの効果発動。手札の暗黒のマンティコアを墓地に送り、墓地から暗黒のマンティコアを特殊召喚。生還の宝札の効果、デッキからカードを一枚ドロ。さらに墓地の暗黒のマンティコアの効果、場の暗黒のマンティコアを墓地に送り、墓地の暗黒のマンティコアを特殊召喚。生還の宝札の効果、デッキからカードを一枚ドロ」

「お、おいまさか……」

「無限ループ、だと……？」

「今更気がついたか。ついでに言っておくと、このデッキにはエクゾディアパーツが全て投入されている。つまり、このコンボが成立した時点でお前らの負けは確定していたんだよ」

「ひ、卑怯だ……！」

「卑怯の使い方を間違っていないか？卑怯というのは、禁止・制限を守らない行為やルールに違反する行為を言う。俺は何もルールを違

「……答えを聞かせてくれ、亮。お前は、俺にどうして欲しい」

「俺は……お前に鍛えて欲しい……」

「例え、リスペクトを捨てる事になってもか」

「そんな、勝利の為に何の役にもたない物は必要ない。俺が求めるのは、他者を叩き潰す圧倒的な力だ!!」

……うん、俺の望み通りになったな、亮。

原作のヘルカイザー程冷酷ではなく、しかし原作のヘルカイザーよりも勝利を強く求める、獣へと。

「……嘘、だよな……?」

ん?この声は?

「リスペクトなんて必要ないなんて……嘘だと言ってよ、お兄さん!!」

まさかここで屑が姿を現すとはな……面白いことになってきた。

ウザイ奴らに自重は一切ない。（後書き）

生還の宝札が制限無しの世界が悪いんだ！！

というわけで、今回のデッキは生還マンティコアです。流石禁止カード。マジ強いですね。

××××は何かって？『のせられません』だよ！！

はい、取り乱してしまって申し訳ありません。次回は地獄の皇帝と初期の翔というカードになっています。

では、また次回。いつになるかわかりませんが、お会いしましょう。

感想を頂くと筆者の執筆スピードが上昇します。

なんだか面白い事になった（前書き）

サイバー流公式チートドロー（笑）

なんだか面白い事になった

「ほう……翔、何か文句でもあるのか？」

そう言う亮の顔は——まるで、獲物を見つけた捕食者のような顔。だが、それに屑は気づかない。

「当たり前だよ！！お兄さん、前まであんなにリスペクト決闘を素晴らしい物だと言っていたのに……どうして！！」

「そんなものでは勝利は得られないからだ」

「勝利……！？そんな下らない物の為に、リスペクトを捨てたって言うの？」

……今、コイツ勝利を下らない物だと言ったな？

「ふざけるな屑。勝利は下らない物なんかじゃない。少なくとも、そんな人を見下した理念よりかはな」

「夜光、鏡夜……貴様が、貴様がお兄さんをこんな風に変えたのか！！」

……やばい。会話になっていない。

「答える夜光鏡夜！！お前が、お前がお兄さんをこんな風に……」屑は馬鹿みたいな大声をあげ続ける。俺自身、コイツに付き合うのが面倒くさくなっていた。

「……それは違つぞ、翔。俺は、自らこのような姿へと変わったのだ」

そんな時、口を開いたのは問題となっていた丸藤亮だった。

「……そんな……嘘だ……嘘だっ!!」

ひとしきり錯乱し終わった後、屑は決闘盤を構える。その相手は――
――亮。

「勝負だ、お兄さん……僕が、お兄さんを元のお兄さんに戻してやる!!」

「――いいだろう。俺は勝利が手に入ればそれでいい。――行くぞ」

「「^{デュエル}決闘!!」」

「僕のターン、ドロー!!僕は、スチームロイドを攻撃表示で召喚!!カードを二枚伏せてターンエンドだ!!」

丸藤翔

LP4000

場

スチームロイド（攻撃力1800）

伏せカード二枚

手札6枚↓3枚

……馬鹿だ、馬鹿がいる。

確かにスチームロイドは攻撃力だけが高い。それに攻撃時に攻撃力が2300まで上がる優秀な効果を持っている。

……が、攻撃された時には攻撃力が1300まで下がるというデメリット効果を持つ、とてもじゃ無いけど最初に出すモンスターじゃ

ない。

それを最初に自信满满で出すなんて……自慢のお兄さんも可哀想な物を見るような目で見ているぞ？

「俺のターン、ドロー。魔法カードテイク・オーバー5を発動。デッキの上から5枚を墓地に送る。永続魔法、未来融合―フューチャー・フュージョン―を発動。F・G・Dを選択し、デッキからドラグニティ・ブランドイストック、ドラグニティアームズ・レヴアイン、ハウント・ドラゴンを二枚、SINTウルース・ドラゴンを墓地に送る」

「サイバー・エンド・ドラゴンじゃ……ない……？」

明らかにサイバー・エンドよりサイバー・ツインの方が強いです。本当にありがとうございました。

それはさて置き、今回は裏を使うか……面白くなってきた。

「俺はサイバー・ダーク・ホーンを攻撃表示で召喚！！」

現れるのはサイバー・ダーク三体のうち、顔の部分に当たる黒き機械。

「何……？そのモンスターは……」

「サイバー・ダーク・ホーンの効果、召喚、特殊召喚、反転召喚に成功した時に墓地のレベル3以下のドラゴン族モンスターを装備カードとして装備し、その攻撃力と守備力を吸収する。俺はハウント・ドラゴンを選択する」

丸藤亮

LP4000

場

サイバー・ダーク・ホーン（攻撃力800↓2500）

「バトルだ！！サイバー・ダーク・ホーンでスチームロイドに攻撃！！ダーク・スピア！！！」

「リバーズカードオーブン！！スーパーチャージ！！場のロイドと名のつくモンスターが攻撃対象になった時、デッキからカードを二枚ドローする！！」

「だが、スチームロイドの効果で攻撃力は500ポイント減少する。1200ポイントのダメージを受ける！！」

「う……うわあああつ！！！」

丸藤翔

LP4000↓2800

「カードを二枚伏せて、ターンエンド」

丸藤亮

LP4000

場

サイバー・ダーク・ホーン（攻撃力2500）

未来融合―フューチャー・フュージョン―（F・G・D選択、0ターン目）

伏せカード二枚

手札6枚↓2枚

場は圧倒的に亮が有利。だが、屑は笑っている。キーカードでも引いたか？

「僕のターンドロー！！リバーズ罠、チェーン・マテリアルを発動！！バトルフェイズを失うかわりに、除外ゾーン以外の場所から融

合を行う事が出来る！！魔法カード、ビークロイド・コネクション・ゾーンを発動！！手札またはフィールド上から、融合モンスターカードによって決められたモンスターを墓地へ送り、「ビークロイド」と名のついた融合モンスター1体を融合デッキから特殊召喚する！！このカードによって特殊召喚したモンスターは、魔法・罠・効果モンスターの効果によっては破壊されず、効果を無効化されない。僕はデッキからトラックロイド、エクस्प्रेसロイド、ドリルロイド、ステルスロイドを墓地に送り、スーパービークロイド―ステルス・ユニオン―を攻撃表示で召喚！！」

丸藤翔

場

スーパービークロイド―ステルス・ユニオン―（攻撃力3600）
「まだだ！！手札から、二枚目のビークロイド・コネクション・ゾーンを発動！！デッキから、スチームロイド、ドリルロイド、サブマリントイドを墓地に送り、スーパービークロイド―ジャンボドリル―を攻撃表示で召喚！！さらに僕はまだ通常召喚を行っていない。僕はサブマリントイドを守備表示で召喚！！カードを二枚伏せてターンエンド！！」

丸藤翔

場

スーパービークロイド―ジャンボドリル―（攻撃力3000）
スーパービークロイド―ステルス・ユニオン―（攻撃力3800）
サブマリントイド（守備力1800）
伏せカード二枚
手札6枚↓1枚

……まさか一ターンでここまで揃えるとはな。屑にしてはやる。
……だが、まだまだ甘いんだよ！！

「やるな、翔。だが、俺はお前の上に行く！！俺のターン、ドロ―！！テイクオーバー５の効果でもう一枚ドロ―！！魔法カード、テイクオーバー５を発動！！デッキの上から５枚のカードを墓地に送る！！魔法カード、苦渋の選択を発動！！サイバー・ダーク・キール二枚、サイバー・ダーク・ホーン、サイバー・ダーク・エッジ二枚の中から好きなカードを二枚選ぶがいい！！」

「僕はサイバー・ダーク・エッジを選択する！！」

「ふ、まあ変わらんよ。魔法カード、天使の施しを発動。カードを三枚引いて二枚捨てる。魔法カード、強欲な壺を発動！！デッキからカードを二枚ドロ―！！行くぞ、翔」

チートドロ―の連続、ありがとう御座いました。そして、多分このターンで決着か。

「魔法カード、オーバーロード・フュージョンを発動！！墓地のサイバー・ダーク・エッジ、サイバー・ダーク・キール、サイバー・ダーク・ホーンを除外し、現れる！！鎧黒竜サイバー・ダーク・ドラゴン！！」

出たな、三体のサイバー・ダークの融合体。にしても、よく墓地に全部落とせたな。

「な、何？この禍々しいモンスターは……」

「サイバー・ダーク・ドラゴンの効果、融合召喚時に墓地のドラゴン族一体を装備出来る。俺は、SINTウルース・ドラゴンを装備する。また、サイバー・ダーク・ドラゴンの第二の効果、墓地のカード一枚につき攻撃力を１００ポイント上昇させる」

鎧黒竜サイバー・ダーク・ドラゴン（攻撃力１０００↓８０００）

「……攻撃力、8000……」

驚いているけど、多分まだ終わらないと思うぞ？

「速攻魔法、異次元からの埋葬を発動。サイバー・ダーク三枚を墓地に戻す。さらに、魔法カードサイバー・ダーク・インパクト！！を発動！！墓地の三体のサイバー・ダークをデッキに戻し、再び姿を現せ！！鎧黒竜サイバー・ダーク・ドラゴン！！効果で二枚目のSINTウルース・ドラゴンを装備させる。魔法カード、天よりの宝札を発動！！デッキから手札が6枚になるまでカードをドロースる！！魔法カード、パワーボンドを発動！！手札の三体のサイバー・ダークを融合し、三度降臨せよ！！サイバー・ダーク・ドラゴン！！効果でドラグニティ・ブランドイストックを装備する！！」

丸藤亮

場

サイバー・ダーク・ドラゴン×3（攻撃力8600×2、攻撃力3200×1）

サイバー・ダーク・ホーン×1（攻撃力2500）

伏せカード二枚

「リバース罠、トラップ・スタンを発動。このターンこのカード以外のフィールド上の罠カードの効果は無効にする。」

「そ、そんな……」

絶望の表情で亮を見る屑。大方聖バリが攻撃の無力化でも仕込んでたんだろ。

「速攻魔法リミッター解除を発動。自分フィールド場の機械族モン

スター全ての攻撃力を二倍にする」

「あ……あ……」

丸藤亮

場

サイバー・ダーク・ドラゴン×3（攻撃力8800↓17600×
2、3400↓6800）

サイバー・ダーク・ホーン（攻撃力2500↓5000）

「終わりだ。サイバー・ダーク・ホーンは貫通能力を持っている。

サイバー・ダーク・ホーンでサブマリンロイドに攻撃！！ダーク・
スピア！！」

「う……うわあああつ！！」

丸藤翔

LP 2800↓-400

既に決着はついている。だが――

「ドラグニティ・ブランディストックを装備したモンスターは、二
回の攻撃が可能となる。サイバー・ダーク・ドラゴン三体で攻撃！
！フル・ダークネス・バースト！！ヨンレエンダア！！」

「う……うわあああつ！！」

――この程度で今の亮が終わるわけが無い。

丸藤翔

LP -400↓-4200↓-6800↓-24000↓-4224
00

「……うわ、えげつねえ……」

四桁のオーバーキルって。流石にやりすぎだろ。

「翔。俺は、今の俺の道に行く。お前はお前の道を歩け。――ではな」

そう言っつて、崩れ落ちている屑を無視して歩いていく亮。うん、格好いい。

「じゃ、俺達も行くか」

「……そうだね……」

そして、俺達も自室に向かって歩き出した。

なんだか面白い事になった（後書き）

というわけで、お兄さんの本気でした。

流石はサイバー流公式チートドロ。一ターンでサイバー・ダーク・ドラゴンを三体揃えるとは……

まあ、翔も十分チートでしたが。

今回はイチャイチャと暗躍になります。決闘は無いかも……

では、いつになるかわかりませんが、またお会いしましょう。

P・S

PV100000、お気に入り登録200件突破しました。こんな駄文を読んで頂いてる皆様、ありがとうございます。

人の恋愛に口を出すな（前書き）

綾香がワンキルじゃありません（笑）

人の恋愛に口を出すな

「待ちなさい！その二人！！」
「む？」

生還マンティコアで狂信者をぶちのめした次の日。

普通に登校してきた俺達は見知らぬ女子生徒に呼び止められた。
ちなみに今俺の頭は半分寝ている。何故かって？昨日は一日中（載せられません）な事をやってたからだよ！！

「原委員長……何か用ですか……？」

「普段から貴方達二人が風紀を乱す行為を行っていると聞きました
が……なんですかそれは！！」

え？俺何かしたっけ？

「何故恋人繋ぎで登校しているんですか！！」

ああ、そういうわけね。

「これでもまだマシなほうなんだけどな……」

「恋人繋ぎでマシ……普段はどんな登校をしているんですか！！」

「え？おんぶ、抱っこ……過去数回お姫様抱っこ……肩車もやった
な……最後のは流石に今はやらないけどな」

「な……な……」

おうおう、絶句してるな。

ちなみに、一番酷かったのは俺が一日中綾香の事を『お姫様』と呼び続け、クラスの全員が見ている前でキスさせられた事だったりする。

俺がクラスの行事の関係で綾香を十分に構ってやれず、他の女子と話していた時に、この罰を執行された。

全く、そんな嫉妬深い所も可愛いんだから。

「兎に角、そんな行為は神が認めてもこの私が許しません!! さあ、私と決闘^{デュエル}しなさい!!」

嫌だ面倒くさい。

そう言いたくてたまらないんだけど……どうしようかな。

個人的にはこういう人物は好きだし、真面目な所も評価出来るから戦ってあげたいんだけど……眠い。

ああ、本当にどうし——

「鏡夜、私にやらせて……」

——何？

「私があの人を相手にしたいんだけど……いい……?」

「いや、別にいいんだが、珍しいな」

普段の綾香はいざという時しか決闘をせず、基本的に俺にくっついてる。そんな綾香が、自発的に決闘をしたいというのは珍しい。一体何が——

「人の幸せな時間を邪魔した者は……誰であろうと叩き潰す……」

——そんな事を考えていた時間が、私にもありました。

やばい。綾香の後ろに般若が見える。比較的本気で。

「さ、公開処刑の時間……叩きのめされる覚悟は十分……？」

「そんな物ありません！！全力で貴方を倒します！！」

あゝあ、始まるぞ。多分あのデッキだろうな……

「^{デュエル}決闘！！！」

トラウマにならないといいけど。

side 綾香

「私のターン、ドロ……永續魔法、魂吸収を発動……カードが除外される度に一枚につき500のライフを回復する……カードを二枚伏せ、ターンエンド……」

綾香

LP4000

場

伏せカード二枚

魂吸収

手札6枚↓3枚

……準備は、終わり……さあ、足掻いてみせて……？

「私のターン、ドロー……！」

「リバースカード、永続罠マクロコスモス……墓地に送られるカードは全てゲームから除外される……さらに効果で原子太陽ヘリオスを守備表示で特殊召喚……」

「それがどうしたんですか……！魔法カード、昼夜の大火事を発動します……！800ポイントのダメージを受けて下さい！」

綾香

LP 4000 ↓ 3200 ↓ 3700

……計画通り……

「ど、どうしてLPが……」

「マクロコスモスで昼夜の大火事が墓地に送られた事により、魂吸収の効果でLPを500回復しただけ……」

多分この学園の生徒では勝てないだろうけど……頑張つて削つてね……

「くつ、私はご隠居の猛毒薬を発動し、ダメージを選択……！800ポイントのダメージを受けなさい……！」

綾香

LP 3700 ↓ 2900 ↓ 3400

「くつ、私はリバースカードを二枚伏せ、永続魔法波動キャノンを発動します……！このカードは自分のスタンバイフェイズ毎にカウンターを一つ乗せ、リリースする事で乗っているカウンター一つにつ

き1000ポイントのダメージを与えます!!ターンエンドです」

原麗華

LP4000

場

伏せカード二枚

波動キャノン(カウンター0)

手札6枚↓1枚

「私のターン、ドロ……魔法カード、封印の黄金櫃を発動……ネクロフェイスを除外し、ニターン後のスタンバイフェイズ時に手札に加える……そして、除外したネクロフェイスの効果発動……このカードが除外された時、お互いのデッキの上から五枚のカードを除外する……」

「な、何ですって!?つまり——」

「私のライフが、回復する……」

除外されたのは、神の宣告、サイバー・ヴァリー、黄金のホムンクルス、強欲な壺、手札断殺……ちよつと痛い……

綾香

LP3400↓9400

「魔法カード、カオス・グリードを発動……墓地にカードが無く、カードが四枚以上除外されているので二枚ドロ……魂吸収の効果でライフを回復……」

綾香

LP9400↓9900

「魔法カード、運命の宝札を発動!!サイコロをふり、その数だけ

ドロし、その後その数だけデッキトップからカードを除外……出目は四、カードを四枚ドロしてデッキトップから四枚除外……魂吸収の効果でライフを回復……」

綾香

LP 9900 ↓ 11900

いいカードが来た……次のターンで終わらせる……でも、その前に……もう少し、下準備……
「魔法カード、天使の施し……カードを三枚引いて二枚除外……魂吸収の効果でライフを回復……」

綾香

LP 11900 ↓ 12900

「除外したネクロフェイスの効果……互いのデッキトップから五枚除外……」

「く……」

嫌そうな顔をしながらカードを除外する原委員長……でも、それでいい……

これは、幸せな時間を邪魔した原委員長へのお仕置きなんだから……あ。

「ネクロフェイスの効果で除外されたネクロフェイスの効果……さらにデッキトップからカードを五枚除外……その前に魂吸収でライフを回復……」

綾香

LP 12900 ↓ 17900 ↓ 22900

「カードを二枚伏せてターンエンド……」

綾香

LP22900

場

原子太陽ヘリオス（守備力1700）

マクロコスモス

魂吸収

伏せカード三枚

手札3枚↓5枚

ヘリオスの守備力が1700……？どうやらモンスターカードが予想以上に除外されていたみたい……嬉しい誤算……

「わ、私のターン、ドロー……リバースカード、無謀な欲張りを発動します……ニターンドローフイズをスキップする代わりに二枚ドロー……魔法カード、強欲な壺を発動します……カードを二枚ドロー……」

「魂吸収で……ライフが回復……」

綾香

LP22900↓23900

「スタンバイフェイズ時に、波動キャノンのカウンターが一つたまります！」

波動キャノンカウンター0↓1

「魔法カード、ご隠居の猛毒薬を発動します……ダメージを選択し、

貴方に800のダメージを与えます!!」

「魂吸収で……ライフが回復……」

綾香

LP 23900 ↓ 23100 ↓ 23400

「まだです!!魔法カード、デス・メテオを発動します!!貴方に1000ダメージを与えます!!」

「……魂吸収で……ライフを回復……」

綾香

LP 23400 ↓ 22400 ↓ 22900

「魔法カード、火炎地獄を発動します!!貴方は1000ダメージを受け、私は500ダメージを与えます!!」

「魂吸収で……ライフ回復……」

原麗華

LP 4000 ↓ 3500

綾香

LP 22900 ↓ 21900 ↓ 22400

「……カードを二枚伏せて……ターンエンド……」

原麗華

LP 3500

場

波動キャノン（カウンター1）

伏せカード三枚

手札5枚↓1枚

絶望したみたいで、気力も無くなってる……まあ、しょうがないけど……

「私のターン、ドロ……このターンで終わらせる……罠カード、異次元からの帰還を発動……ライフを半分払い、除外ゾーンからモンスターを可能な限り特殊召喚する……来て、ダ・イーザ……ホムンクルス……」

綾香

LP22400↓11200

場

紅蓮魔獣ダ・イーザ×3（攻撃力？↓9200）

黄金のホムンクルス（攻撃力1500↓8500）

原子太陽ヘリオス（守備力1700↓1200）

「ダ・イーザは……元々の攻撃力は除外されている自分のカード一枚につき400ポイントになる……黄金のホムンクルスは、除外されている自分のカード一枚につき、攻撃力を300ポイント上昇させる……現在、除外されている私のカードは23枚……よって、この攻撃力になる……さらに、私はまだ通常召喚権を残している……ヘリオスを生贄にささげ、二枚目の黄金のホムンクルスを召喚……さらに、原子太陽が除外された事により私のモンスターの攻撃力が上昇する……念のためにリバーズカードオープン、トラップ・スタン……このターン全ての罠の効果を無効にする……さらに、トラップ・スタンが除外された事によりモンスター達の攻撃力が上昇……」

綾香

場

紅蓮魔獣ダ・イーザ×3（攻撃力9200↓10000）
黄金のホムンクルス×2（攻撃力8500↓9100）

「バトル……紅蓮魔獣ダ・イーザ、黄金のホムンクルスでダイレクタアタック……」

「き……きゃああああー!!」

原麗華

場

LP3500↓-6500↓16500↓-26500↓-354
00↓-44300

「……やりすぎだろ、綾香……」

「……確かにそうかも……」

自分でも反省する。確かにわざわざ最後に異次元からの解放を使う意味はなかった……

何故なら……

「どうせお前のことだからD・D・ダイナマイトも伏せてたんだろ？」

「……うん……」

既に原委員長はカードを15枚は除外していたから、D・D・ダイナマイトを使えば最低でも4500のダメージを与えられた……それをしなかった理由は、単に――

「ま、勝手にいちゃもんつけてきた相手が悪いんだからいいか」
「うん……」

——単に、私が苛ついたというだけなのだから。

「委員長」

「……敗者の私に……何か用ですか」

「いや、俺は君のその性格や真面目な所はいいと思う。けど、少し堅すぎるんだ」

「堅すぎ……ですか？」

「ああ。手を繋いでいるくらいで怒るなんて、流石にそれはないだろ？」

「し、しかし……」

「こう言つては悪いが初見での判断に頼りすぎだと思う。だからもう少し情報を得てから怒るべきじゃないか？」

「……ここは私の負けなので素直に引いておきます。しかし、次はそうはいきません！！」

そう言つて走り去っていく原委員長………こういう所が委員長と呼ばれる由縁……

「残念。嫌われてしまったか。さ、行こうぜ綾香」

そう言つて手を差し出して来る鏡夜………そして当然のように、私は

「仕方ない………どうしても、って言うなら一緒に行つてあげる………」

——ツンツンしちゃう………

人の恋愛に口を出すな（後書き）

原作オリカの運命の宝札マジチート。

というわけで除外ビートでした。

レベル3モンスターが五桁の攻撃力……うわ、怖い。

もし本当にこんなのなら絶対にトラウマになります（笑）

さて、次回はタイタン戦の予定です。

強化された十代に、はたしてタイタンはどこまで戦えるのか……？
その答えは、作者も知らない。

では、いつになるかわかりませんが、またお会いしましょう。

タイタン……声が素晴らしい。（前書き）

皆様の予想を大きく裏切ります（笑）

タイタン……声が素晴らしい。

「……そろそろ、始まる……」

「ん、何がだ？綾香」

『今日はちょっと早めに……やる……』と仰る綾香に従い、一戦終わらした所で唐突に綾香はベッドの中でそう言った。

「……気づいてないの……？何の日か……」

へ？今日何かあったっけ？

「……タイタン戦……」

「ま、マジか!？」

「うん……だから早く……」

「おう!!着替えて行こうぜ!!」

何で服を着てないかって？自分で考える!!

「私のターン、ドロー。私は、手札のジェネラルデーモンを捨て、万魔殿―悪魔の巣窟―を発動。さらにシャドウナイトデーモンを攻撃表示で召喚。カードを一枚伏せて、ターンエンドだ」

タイタン

LP4000

場

シャドウナイトデーモン（攻撃力2000）

伏せカード一枚

フィールド魔法（万魔殿―悪魔の巣窟―）

手札6枚↓2枚

ちっ、既に始まっていたのか……まあいい。見ただけでも幸いと言えるだろう。

それにしても若本さんは順調な出だしだな。まあ、それでどこまで十代と戦えるかはわからないが。

ちなみに俺達は十代と合流せず、物陰から静かに観戦中だ。

「デーモンデッキか……へへっ、面白そうだな!!」

「貴様、わかつているのか……これは、闇のデュエルだぞ?」

「へへっ、そんな信じられるかよ!!行くぜ、俺のターン!!」

……残念だがな十代、この世界だとあるんだよ、闇のデュエル……確かにタイタンは偽物だがな……千年パズルも……

「ドロー!!俺は、エアーマンを攻撃表示で召喚!!効果で、スパークマンを手札に加える!!さらに、手札から、魔法カード融合を発動!!手札のスパークマンとクレイマンを融合し、現れる!!E・HEROサンダー・ジャイアント!!」

……あれ?またワンキル?

「サンダー・ジャイアントの効果、手札を一枚捨ててこのカードよりも攻撃力の低いモンスター一体を破壊する!!ウェイパー・スパーク!!」

「シャドウナイトデーモンの効果、このカードが効果の対象になった時、サイコロを振り、3が出た場合その効果を無効にして破壊する」

「へへっ、そんなの外れるに決まってるッス!!」

……はあ。

明日香を攫うような奴だぞ？そんな奴がまともにルールを守っているのか？

「出目は3、サンダー・ジャイアントの高価を無効にして破壊する」
「何っ!？」

サイコロに細工をして必ず狙いの出目が出るようにするに決まっているだろ。それともアレか？学習しないのか？

「くっ、カードを一枚伏せてターンエンドだ!!」

十代

場

E・HEROエアーマン（攻撃力1800）

伏せカード一枚

手札6枚↓2枚

ワンキルになる所だったが、サンダー・ジャイアントを破壊されてピンチに陥ったか。

さあ、どうする十代？

「私のターン、ドロー。私は、シャドウナイトデーモンを生け贄に捧げ、迅雷の悪魔スカル・デーモンを攻撃表示で召喚する」

出たよ、デーモンの召喚のリメイクモンスター。

なのに名前では判別し辛い上に効果も微妙、なおかつ魔霧雨に対応しなくなった、まさしく可哀想なモンスター。

正直、見れて良かったよ。いや、マジで。

「バトルだ！！スカル・デーモンでエアーマンに攻撃！！怒髪天昇撃！！」

何故魔霧雨じゃないんだ、とファンなら誰もが思ったその一撃は、完璧にエアーマンを打ち倒した。

十代

LP4000↓3200

「くっ……リバーズカードオープン！！ヒーロー・シグナル！！この効果で俺は、デッキからE・HEROバブルマンを守備表示で特殊召喚する！！バブルマンの効果、このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時に自分のフィールド上に他のカードが無い場合、デッキからカードを2枚ドロウする事ができる！！この効果で二枚ドロウ！！」

伏せてたのはヒーロー・シグナルか。にしても、流石は原作効果のバブルマン。強欲なヒーローの名前は伊達じゃないか。

「後続を呼んでしまったか……まあいい。ターンエンドだ」

タイタン

LP4000

場

迅雷の悪魔―スカル・デーモン―（攻撃力2500）

伏せカード一枚
手札3枚↓2枚

伏せない、ということはあの伏せカードは聖バリか幽閉か……おそろく攻撃反応系罠か。

だが、それで満足してたら十代には勝てないぜ？

「俺のターン、ドロー！！魔法カード、強欲な壺を発動！！デッキからカードを二枚ドロー！！」

……あるえー？どうしてさっき二枚だった手札が六枚にまで増えるのかなあ……？

チートドロー自重しろ。

「手札の沼地の魔神王を捨てて、融合を手札に加える！！」

これ、十代のデッキに入ってたから俺が売ってやった。当然そんなに十代が金を持っている筈もなく、出世払いという形に落ち着いたが。

等価交換は大切です。

「俺は、手札から、ミラクル・フュージョンを発動！！墓地のスパークマンと沼地の魔神王を融合し、現れろ！！E・HEROシャイニング・フレア・ウイングマン！！」

……終わっ たな……可哀想に。

本来この時期にデッキに投入されてはいなかったが、俺が沼地や他のカードを売ってやった時にデッキに投入させた。

実際強いしな。沼地との融合で簡単に出せるし、攻撃力も正規召喚なら簡単に3000を超え、未来融合・フューチャー・フュージョ

ン・でエリクシーラーを指定するだけで攻撃力が1200も上昇する、まさしく最強クラスのHERO。

なのにアニメでは不憫だな……

「シャイニング・フレア・ウイングマンの効果、このカードの攻撃力は、自分の墓地に存在するE・HEROと名のついたカード1枚につき300ポイントアップする！！墓地には、クレイマン、サンダー・ジャイアントの二枚のカードが存在する！！よって、このカードの攻撃力は600ポイント上昇！！さらに、手札から魔法カード融合を発動！！手札のE・HEROワイルドマンと場のE・HEROバブルマンを融合！！」

「馬鹿な！！その二枚で融合出来るE・HEROなどいるわけが――」

甘い。

「現れる！！V・HEROアドレクション！！」

確かに俺は属性HEROの融合体は渡していない。が、V・HEROまで渡していない、とは言っていない！！

「な、なんだそのモンスターは！！」

「V・HEROアドレクションの効果、1ターンに1度、相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体と、このカード以外の自分フィールド上に表側表示で存在するHEROと名のついたモンスター1体を選択して発動する。選択した相手モンスターの攻撃力・守備力はエンドフェイズ時まで、選択した自分のモンスターの攻撃力分ダウンする。俺はお前の場の迅雷の悪魔スカル・デーモンと俺の場のE・HEROシャイニング・フレア・ウイングマンを選択する！！」

迅雷の悪魔―スカル・デーモン―（攻撃力2500↓0）

E・HEROシャイニング・フレア・ウイングマン（攻撃力3100↓3700）

「手札から速攻魔法、サイクロンを発動！！お前の場の伏せカードを破壊する！！」

「な、なんだと！？」

破壊されたのは聖バリ……予想通り過ぎだろ、おい。

「バトルだ！！シャイニング・フレア・ウイングマン、アドレイションで攻撃！！シャイニング・シュート！！、アンビション・サンクシヨズ！！」

「うぐわああああ！！」

タイタン

LP4000↓300↓-2400

「ち、ちいつ！！」

あ、逃げた。

「……追いかけて……」

「そつだな」

一瞬の考えの後、俺達はタイタンを追った。俺達の目的の為に。

タイタン……声が素晴らしい。（後書き）

誰がV・HEROを渡していないと言った！！作者は『属性HEROの融合体は渡していない』と言っただけで、何も『漫画版HEROの融合体を全て渡していない』とは言っていない！！

この際はつきり言いますがバブルマンを融合素材にしたHEROが弱すぎるんですよ。なので、これからこの作品ではスチームヒーラー、セイラーマンの出番はない、と思って頂けると嬉しいです。

勿論漫画版『属性HEROの融合体』は渡していないので十代の元での出番はありません。ひき続き他のアニメ版HEROを出していき、V・HEROの出番は少なくなっていく予定です。

では次回、いつになるかわかりませんが、またお会いしましょう。

倫理委員会？空気読め。（前書き）

……今回、いきなりな事をバラしますが許して下さい……

倫理委員会？空気読め。

「……始めまして、かな？自称闇の決闘者」
デュエリスト

「……何者だ、貴様はあ」

ふう。やっと見つけた。全く、面倒くさい場所に逃げやがって。

「俺は——」

とりあえず、とっとと用事を終わらせよ。

「扉を開ける！！開けなければドアを爆発する！！」

おうおう、やってみろ。傷一つつかないと思うけどな。

「……鏡夜の、ターン……」

「ああ、考えごとしてた。ごめんな、綾香」

「——別に。対戦相手が行動しなかったら、私まで迷惑がかかるかな」

……顔を真っ赤にしながらそんなことをたまっても効果はありませんよ。綾香さん。

むしろただ可愛いだけです。もし俺がひぐらしの某ヒロインならお

持ち帰りしてまずぜ？

「にしても、五月蠅い……」

「まあ、頭がアレな事で有名なアカデミア倫理委員会だからな」

「なるほど、確かに……」

……綾香、ちょっと黒いよ？

タイタンと十代が戦ったその翌日——つまり今日、俺と綾香は俺の部屋で二人揃って引きこもり決闘^{デュエル}していた。まあ、単に倫理委員会の邪魔がしたいだけなんだけど。いざとなれば、切り札もあるし。万一突入されてきた時の為に、（載せられません）はやってないし。ちなみに今現在の場は、

鏡夜

LP8000

場

カードガンナー（攻撃力400）

ダーク・グレファア（攻撃力1700）

ダーク・アームド・ドラゴン（攻撃力2800）

伏せ一枚

手札2枚

（墓地：闇属性モンスター4枚）

綾香

LP8000

セットモンスター×1

伏せ3枚

手札2枚

だ。

当然のようにLPは8000で行っており、現在は2ターン目。ソリッドビジョン？あんなの部屋じゃなかなか使えない。

「俺のターン、ドロ。カードガンナーの効果、デッキトップからカードを三枚送りこのカードの攻撃力を1500ポイント上昇させる。ダーク・グレファアの効果、手札から終末の騎士を墓地に送り、デッキから終焉の精霊を墓地に送る。魔法カード、天使の施しを發動。デッキからカードを三枚引いて二枚捨てる。魔法カード、終わりの始まりを發動。墓地の閻属性モンスターを五枚除外し、デッキからカードを三枚ドロ。……よし、手札から流転の宝札を發動。デッキからカードを二枚ドロ。俺は墓地の終末の騎士とシャインエンジェルを墓地に送り、カオス・ソーサラーを特殊召喚！ダーク・アームド・ドラゴンの効果、墓地の閻属性モンスター一枚を除外する事でフィールド場に存在するカード一枚を破壊する！！一度目の効果でセットモンスターを破壊する！！」

「……ッ！！マシユマロン……」

……あつぶね……さつさと破壊しといてよかったよ……

「二度目の効果で右側の伏せカードを破壊！！」

「リバース罠……第六感……私は、三と六を選択する……」

「……げ、第六感がよ……お前が使つと最強のドロソースになるだろが……」

「早く……ふつて……」

「はいはい」

綾香の指示に従い賽子をふる。そこには、俺の予想通りの数字があった。

「……出目は三……効果で三枚ドロ……」

「……本当にチートだよ、その能力……ま、これ以上言うとお前に悪いから言わないけどな」

「……ありがとう……早く、続き……」

「わかったよ」

素直にプレイを進める事にする。もう慣れた事だ。気にはしていない。彼女——桜野綾香——には、幾つかの能力がある。俗に言う『サイコデュエリスト』のような能力が、だ。

その内の一つが、予言能力。賽子やコイントスの出目を予知してしまいう能力。

便利？馬鹿を言うな。予知『してしまう』んだ。『出来る』のではなく、な。

つまり、綾香は半強制的に賽子やコイントスの出目を予知してしまいう。これが原因で彼女は過去——いや、今はこれは関係ない、か。だから、彼女は普段よっぽどの事がない限りギャンブルカードを使わない。まあ、俺との決闘を除いて、だけどな。

「ダーク・アームド・ドラゴンの効果、闇属性モンスターを除外して最後の伏せカードを破壊——」

「……ごめん……罨カード、和睦の使者……このターン私は戦闘ダメージを受けない……」

「やられた……お前のデッキはどうせあれだし……俺の負け、か……カードを二枚伏せてターンエンド時に流転の宝札の効果で手札を一枚墓地に送る。ターンエンドだ」

鏡夜

LP8000

場

カードガンナー（攻撃力1900↓400）

ダーク・グレファアー（攻撃力1700）
ダーク・アームド・ドラゴン（攻撃力2800）
カオス・ソーサラー（攻撃力2400）

ちなみに伏せはパワー・ウォールにカード・ブロック、手札はダイク・クリエーター二枚に終わりの始まりだ。

場が圧倒的に有利な俺が負けるわけない？そんなことはあるわけないんだ。特に綾香相手だと……な。

「私のターン……ドロー……魔法カード、トレード・インを発動……手札の堕天使スペルビアを捨てて二枚ドロー……魔法カード、天使の施し……カードを三枚引いて二枚捨てる……二枚目のトレード・インを発動……手札の堕天使ゼラートを捨てて二枚ドロー……魔法カード、流転の宝札を発動……デッキからカードを二枚ドロー……揃った……」

あ、終わった。

「手札から光神化を発動……手札のアテナを攻撃力を半分にして特殊召喚……手札から速攻魔法、地獄の暴走召喚……私は、アテナを選択する……」

「じゃ、俺は適当にダムドを選択しとく。もう負け確定だし」

綾香

LP8000

場

アテナ×3（攻撃力1300×、攻撃力2600×2）

鏡夜

LP8000↓7400

場

ダーク・アームド・ドラゴン×2（攻撃力2800×2）
ダーク・グレファアー×1（攻撃力1700）
カオス・ソーサラー（攻撃力2400）
カードガンナー（攻撃力400）
伏せ二枚

「私はフェアリー・アーチャーを召喚……アテナの効果で600ダメージ……三体存在するから1800ダメージ……さらに、フェアリー・アーチャーの効果、場の光属性モンスター一体につき400ダメージ……私の場には四体の光属性モンスターがいるから1600ダメージ……」
「ちょ、燃えるの早いな!!」

鏡夜

LP7400↓4000

一気に初期ライフの半分……だが、地獄はこれからなんだよ……

「アテナの効果……場のフェアリー・アーチャーを墓地に送り墓地の堕天使スペルビアを特殊召喚……効果で墓地の堕天使ゼラートを特殊召喚……当然、アテナの効果で600ダメージ三体分を二回、合計で3600ダメージを受けて貰う……」

「……もう無理だな……」

鏡夜

LP4000↓600

「手札から魔法カード、ハリケーンを発動……フィールド場の全ての魔法、罨を手札に戻す……堕天使ゼラートの効果、手札の闇属性モンスターを一枚墓地に送り、相手フィールド場のモンスターカー

ドを全て破壊する……全モンスターでダイレクトアタック……」

鏡夜

LP 600 ↓ - 700 ↓ - 3300 ↓ - 5900 ↓ - 8700 ↓ -
11500

「……わざわざ最後に直接攻撃する意味あったのか……？」

「……ハリケーンが……手札にあったから……」

「……まあ、それなら仕方ないな」

でも、これで戦績は49勝49敗か。数えてないのを含めるとまだあるのを計算に入れても勝率は50%といった所だろう。

「くっ……何故爆発しても扉が壊れないんだ!!」

「あの人達……」

「言ってるやるな。哀れになるだけだろ」

「そうだね……」

会話をしているうちに身支度を済ませ、窓を開ける。窓の鍵も電波式の為、外からでも鍵がかけられる。

……つまり、わざわざ馬鹿が出迎えてくれる玄関から出る必要は全く無い。

「さ、行こうぜ綾香」

騎士のように、片手を差し出す。事実、俺はある意味騎士だ。綾香を守る、という意味だが。

「エスコート……よろしく……」

「任せておけ。校長室へどうぞ案内しよう」

「鏡夜の部屋じゃ……無い……」
「まあな」

クスクス笑いながらも、綾香は俺の手をとってくる。それを確認した俺は、靴を履き、窓に鍵をかけた後校長室に向かって駆け出した。

倫理委員会？空気読め。（後書き）

すみません。今から寝るのでまた別の日に正式なあとがきを投稿します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9002w/>

遊戯王に転生？ そんな事より婚約者とイチャイチャしてたい。

2011年10月21日03時01分発行